

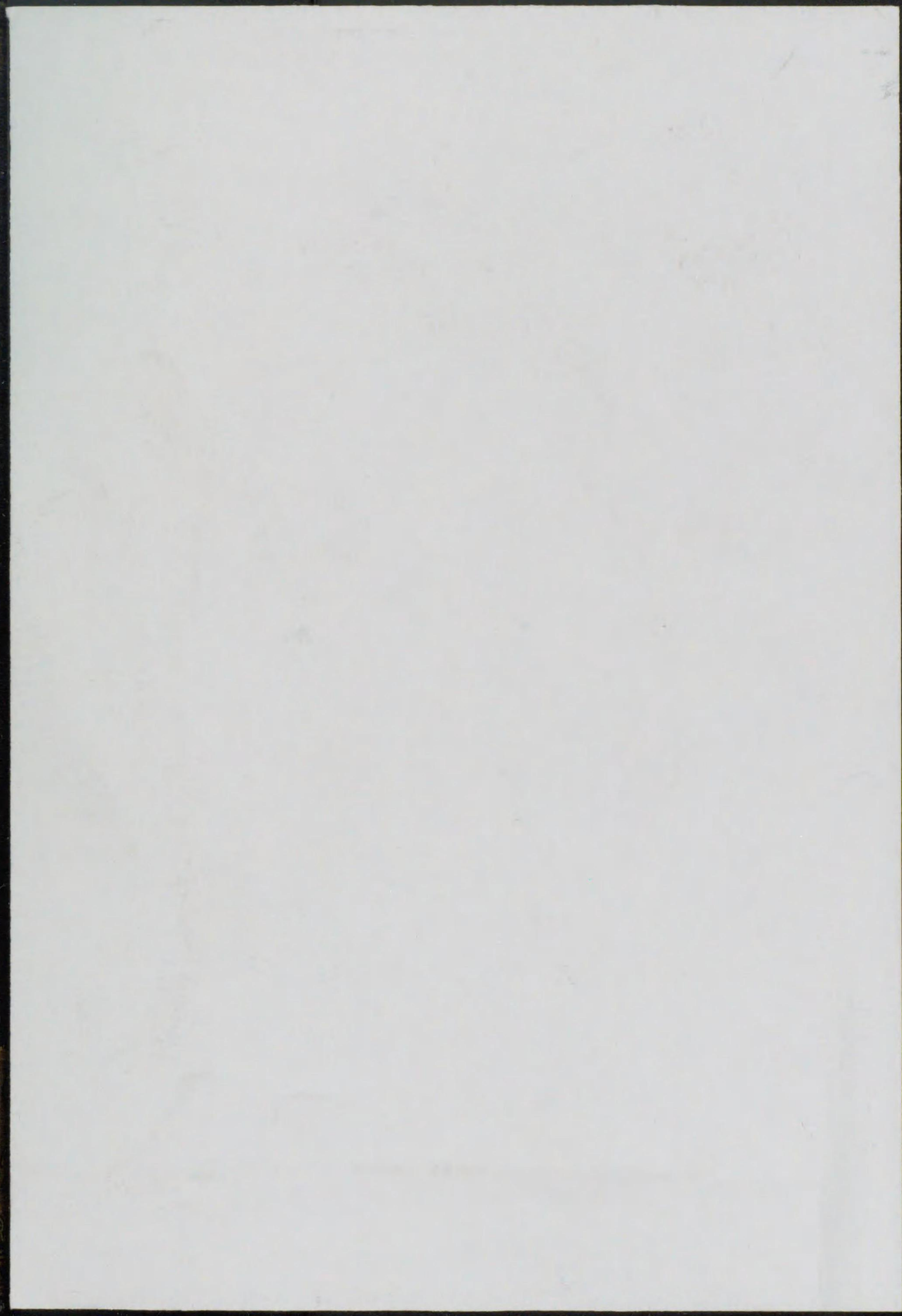
606-216



1200501532322



الكتاب



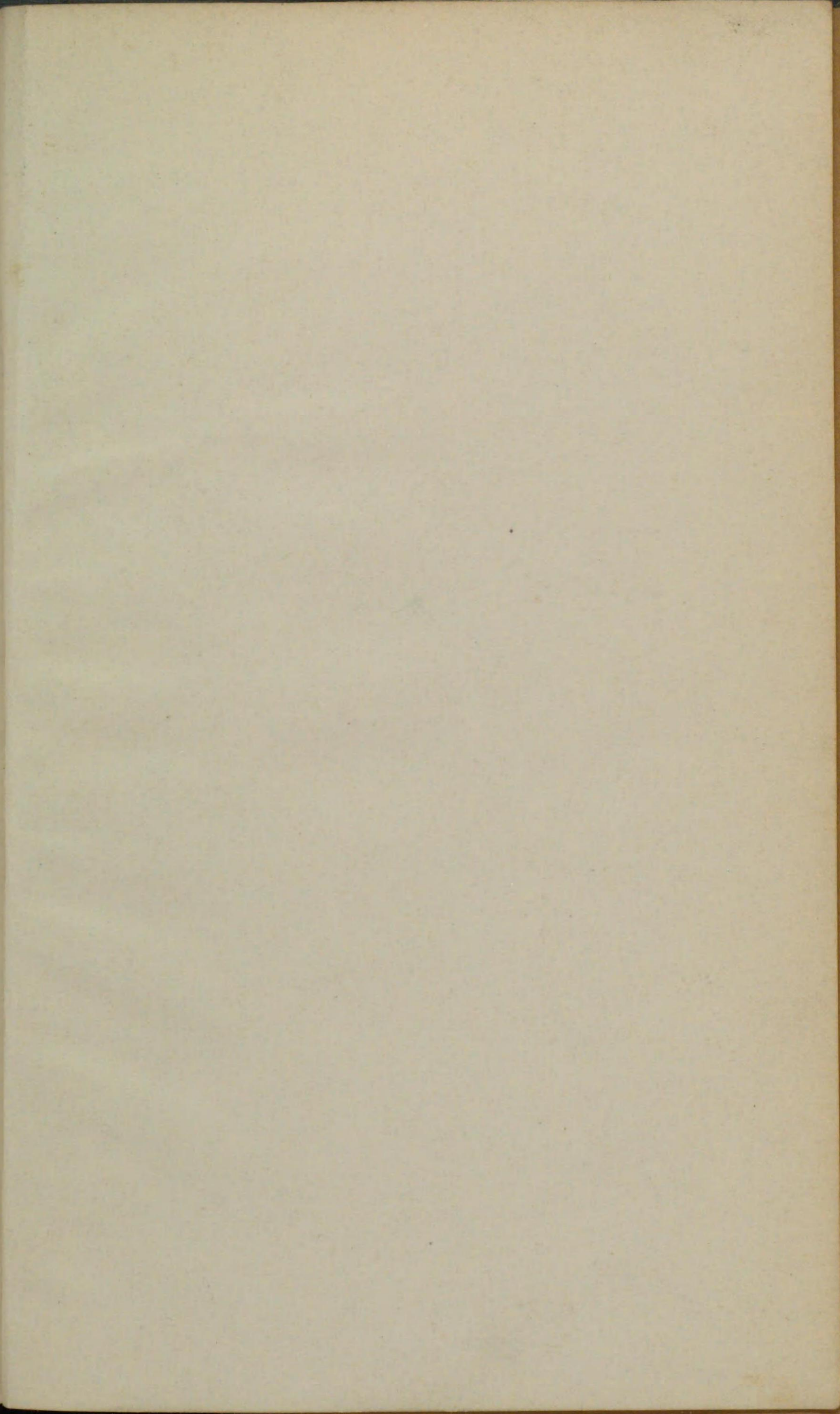
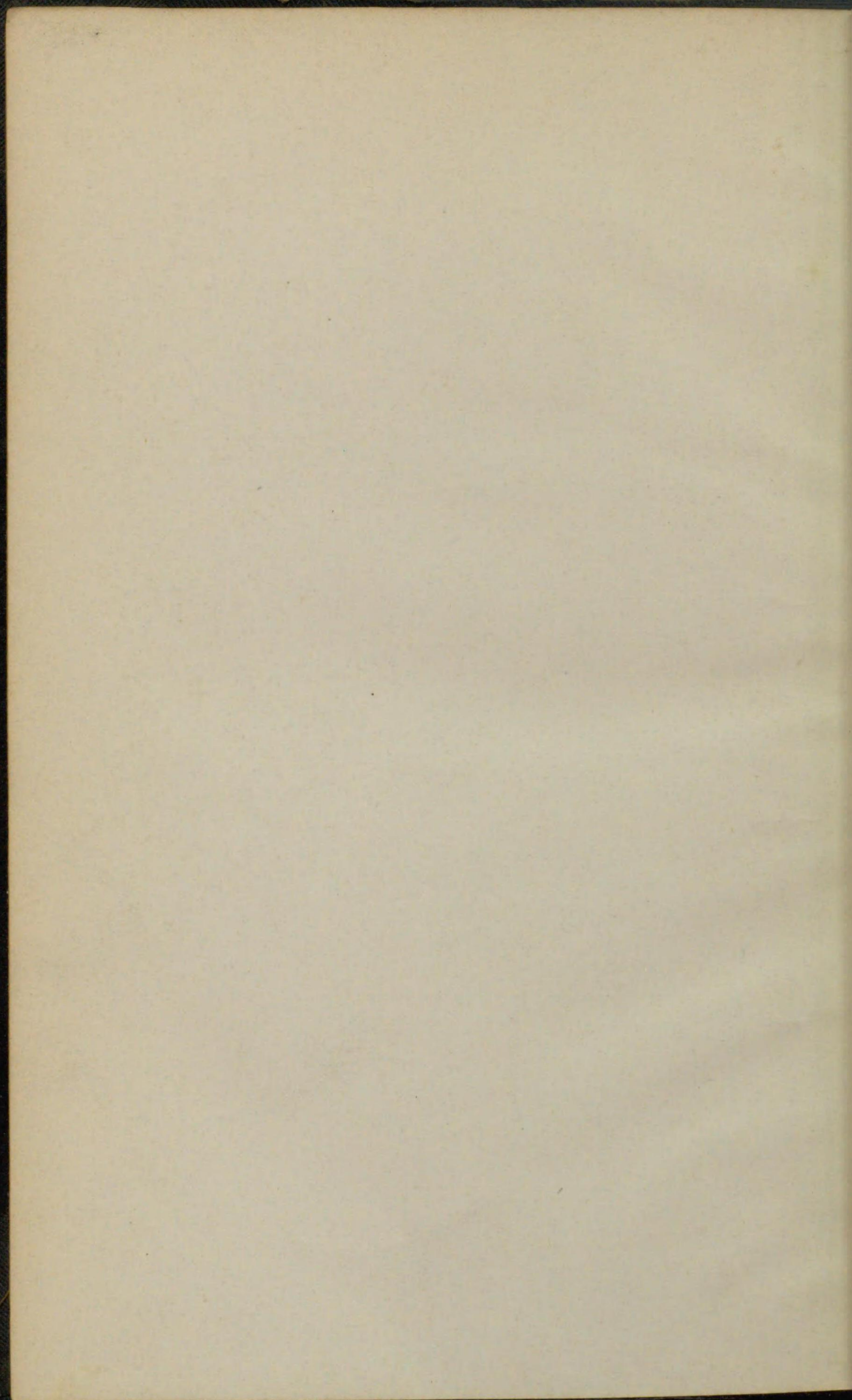
6, 5.4

109

大谷光瑞述

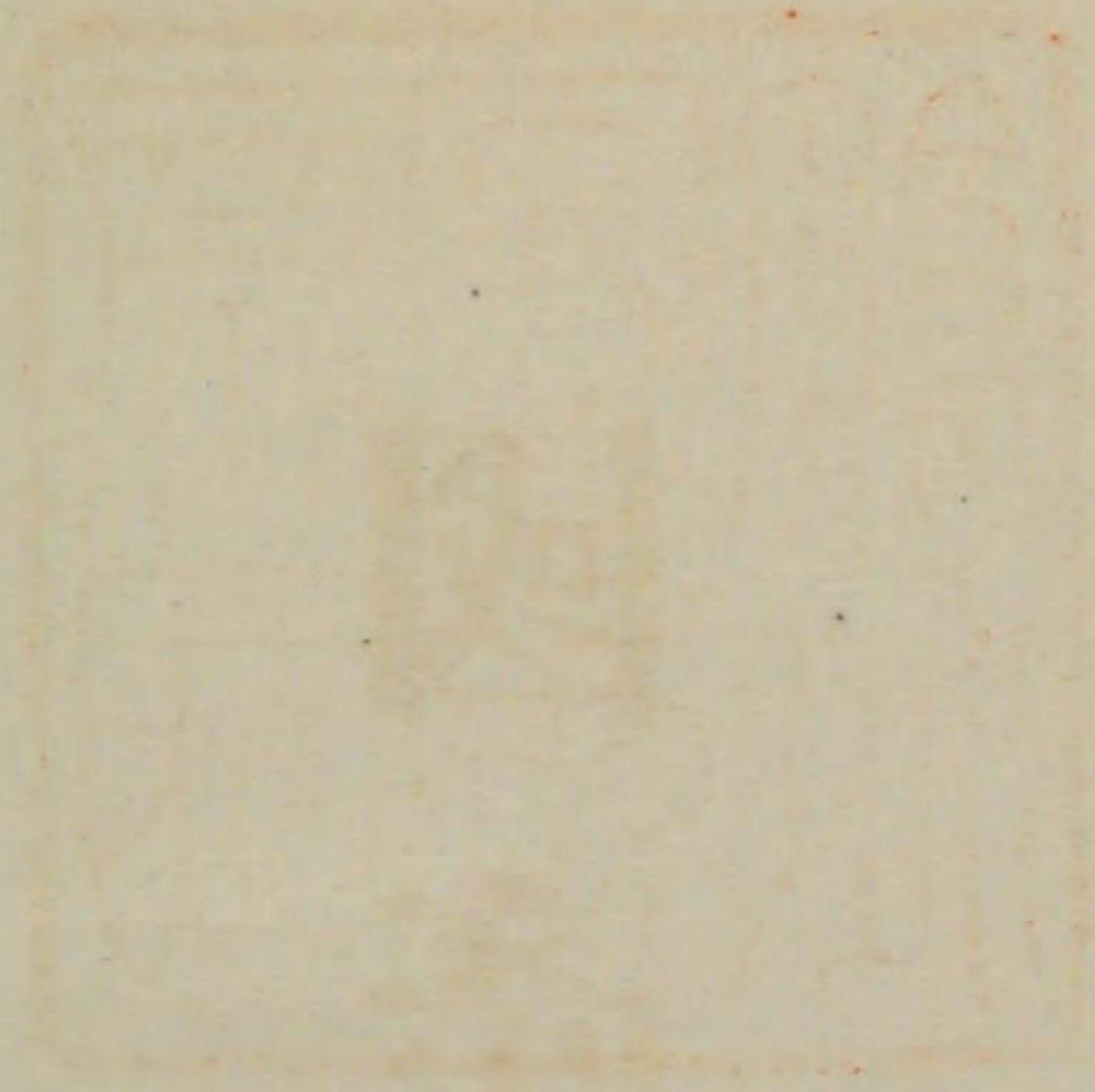
國產の愛用

東京大乘社支部發行





國產
の
愛
用



606-216

國産の愛用

目次

國産と國民	一
比率上から見た國産品	一一
愛用と奨勵	二二
輸入品	二六
棉	二六
鐵	二九
機械類	三三
羊毛	三六
肥料	三九
礦油	四二

目次

一

目次

木材	四四
豆類	四九
小麥	五〇
硫酸アンモニウム	五三
石炭	五四
護謨と樹脂	五四
自動車類	五七
砂糖	五七
採油用原料	五八
植物繊維	六一
米と粃	六二
毛織物	六二
鉛	六三
バルブ	六三
燐礦石	六五
煙草	六五

目次

皮類	六八
獣と飼料	六九
紙	七〇
アルミニウム	七〇
苛性ソーダとソーダ灰	七二
硫酸ソーダ	七三
亜鉛	七四
錫	七四
合成染料	七五
綿織物	七七
鳥獸肉	七七
革類	七八
硫酸加里	七九
懐中時計類	七九
銅	八三
ガラス板	八三

目次

穀粉と澱粉	八四
牛脂	八五
鹽魚	八六
食鹽	八八
コンデンス・ミルク	八八
鳥卵	九〇
寫眞用フィルム	九二
石絨類	九三
玉蜀黍	九三
漆	九四
メートル類	九四
貝殼	九五
高粱	九五
鹽化加里	九六
電話機類	九六
獸骨	九七

農具工匠具類	九七
酒類	九七
書籍と雜誌	九八
植物性芳香揮發油	九九
コールドール	九九
汽船	一〇〇
コルク樹皮	一〇〇
タンニンエキス	一〇一
蔬菜と果實類	一〇一
寫眞用乾板	一〇八
豚毛	一〇八
鐵砲類	一〇八
絶縁電線	一〇九
水銀	一〇九
理化學器類	一〇九
コヒーバー	一一〇

目次

眞鍮と青銅	一一〇
生絲	一一〇
釘類	一一一
綿織物	一一一
繭	一一一
カゼイン	一一二
爆發藥	一一二
タンニン材料	一一三
籐	一一三
インヂヤラツパー類	一一三
包莖	一一四
計算器類	一一四
ニツケル	一一四
鐵道車輛類	一一五
フェルト帽子	一一五
鐵鏈	一一五

醋酸石灰	一一六
寫真用紙	一一六
粟類	一一六
齒磨粉、香水類	一一七
滑石類	一一八
還元劑	一一九
カーボンブラツク	一一九
寫真機類	一一九
ドロマイトとマグネサイト	一二〇
大麥	一二〇
ピツチとアスファルト	一二〇
結論	一二一

目次終

國産の愛用

大谷光瑞述

國産と國民

今日は京都の御有志の方々から、私の既往に於きまして、色々致してをりま
する事業なり、其他に付て、何等か手傳をしてやらうと云ふ、どうも洵に有難
い思召でございますから、宜しくお請けを申上げました。就ては顔馴染になる
やうに、一つ發起人が寄るから何か話をするようにと、斯う云ふことござい
ました。

一向どうも私は餘り大して申上げる程の材料も有つてをりませんが、差當り

まして、只今の總理大臣が、國産品の愛用を一般人民に勧めるやうにして欲しい、斯う云ふ御演説がございました。此の國産品の愛用と云ふことは、私共の多年抱懐してゐる意見で、金解禁になつたから國産品の愛用をせねばならぬ、輸出入のバランスが取れぬから、愛用しなければならぬと云ふ問題ではない。國としては是非之を愛用しなければならぬものだ。それと同時に、又外國品でも、自分の國に非常に益を興へるものは、之を輸入しなければならぬ。兎に角主として國産品を、自國の者が使ふと云ふのは、是は原則としてかくあるべきものである。殊に最近のように經濟状態の洵に都合の悪い時には、必然之をしなければならぬ。

之に關しまして、現任の總理大臣の採られる所の政策と云ふものは、極めて私は正當な政策と考へてをります。所が總理大臣は、一般國民に國産品を愛用するがよからうと仰しやるから洵に結構です。けれども一般人民になると、ど

れが國産品やら分りませぬ。それでは甚だ困る。あなた方でも御自身で、今茲にお坐りになつてゐますが、着ておいでになる着物、頭の上に戴いてゐる帽子、足に履いてゐる靴、下駄はどうだ、此の家、机、ガラス、一々分解して行くと、どれが國産品か、私が質問して百點のお答の出来る方が、何人ございますか怪しい。今私も百點の答はとも出来ませぬ。

それでは之を買はねばならぬと云ふ時に、扱て待てよ、國産愛用をやらねばならない。是は國産だらうか、非國産だらうか、半國産だらうか、斯う云ふことになつて來ると、却々以て迷惑です。何にも買ひもせず、食ひもせず、じいつとして居らねばなりません。段々考へて見ますのに、純國産の生活をしようと思ひますと、羽二重の帽子に、羽二重の着物、草鞋を履いて土を掘つて這入つてゐる、是は純國産で行けるやうです。食ふものは米、是は國産で出來ます。國産の豆、大根、其の次に水も國産です。外國の水を輸入して來ますと、瓶に

這入つてをります。鹽は專賣局でやつてをりますが、非國産があります。海へ行つて水を甜めて鹽加減をする、これ位なら百點の答を致します。其の餘になつて來ると却々六ヶ敷うございます。それでは一向趣意が徹底致しませぬ。

是はこんなことではいかぬ、本元へ行つて聞いて來ぬといかぬと思ひましたので、四日の日に神戸を發しまして、五日に東京に行き、六日の日に只今から申しますと、一昨日商工大臣に會ひまして、商工大臣に訊いて參りました。「それが全體國産ですか、それが分らぬと、折角の政府の御趣意は結構でも、自分の精神では實行してをつても、行爲は反對したことに段々なつて來ます。何の爲にしたか分らんことになりませんが、どうですか。」「いやどうも大きに御尤の話だが、却々是は一言には言ひにくい。」「言ひにくうございませう。日本の商品でも何千とありますから、一言ではいかぬ。百言千言一萬言費していけるか否か、吾々問題ですが、こゝへ行きますと、「國産品を以て代用し得べき輸入品調」

斯う云ふ書物を商工省から出してゐるやうであります。是は昭和五年五月五日に發行してをりますから、洵に新しいもので、まだ一般に普及してをらぬと仰しやいました。追々普及させると云ふことです。追々はあなた方の手にも這入りませう。之を見ると稍々分ります。却々十分には分りませぬ。どうも困つたことです。

それで私は問ひ返しまして、「洵に御尤もです。御尤もですが第一政府のお出しになるものは、國産を愛用して頂かんと困ります。」「無論のこと政府の出すものは、國産を愛用して行く。」「然らばお伺ひしますが、官報は國産でございますか、非國産でございますか。」「官報は政府が印刷して出す新聞です。」「其奴は一寸待つて呉れ。』と云ふことでした。商工大臣も的確なお答はようなされなかつた。恐らく出來ますまい。

紙と云ふものは日本のものか、日本の物でないかと云ふことは疑問です。半

分日本のやうな香ひがあり、半分程は外國のやうな香ひがしてをります。紙になつて輸入しますと、外國品でございます。バルブになつて來ると、半分日本品でございます。バルブは北海道の使つてゐるか、沿海州、カナダ、スエーデン、ノルウエーの使つてゐるか、大抵日本へ來るバルブはそんなもので、半分位は外國品でございます。さう云ふことになると思ひます。國産品か非國産品か分らぬといふことでございます。商工大臣が、私の質問に對して、直ぐ説明の出來なかつたのも尤もだと思ひます。「よく調べて置かう。なるべくそれらも、若し外國品のものであれば、契約だけ終れば變へて、こつちのものですることにしよう。大抵國産を使つてゐる筈だ。國産を使へといふことを始終言つてゐるから、使つてゐる筈だ。又使つてゐると思ふ。」さういふことならばよい。

「煙草は政府がお作りになつてをります。黄色煙草は國産でありませぬ。あゝいふものはおやめになつたらどうです。」と申しましたら、「尤もと考へる。併し趣味嗜好といふものは、一朝に變へられるものでないから、漸を期して之に向けよう。」之も御尤も、漸を期して之に向けようといふお考なら、何も伺ふ必要はございません。既に政府すら斯様なことでございますから、却々以て人民の方では分り兼ねます。それで、「そこの所を十分分らせるやうにして頂きたら。」「其の邊はよく聞いたから、其の様にしよう。」が併し政府として考へるのは、舶來品が結構だ、よいものだと思へる日本人の思想を、一つ立て替へたい。斯ういふことでございます。

是はどうも往年日本品がまづくつて、舶來品がよかつた時代に、さういふ思想が出來た。日本に上等舶來といふ言葉がございます。よいものは皆舶來品であつて、上等は舶來のものでございました。併しゆつくりと考へて見ますのに、羽二重のよいのを、之は上等舶來の羽二重とは言ひませぬ。女の立派な帶

を持つて来て、上等舶來とは云ひませぬ。それですから日本從來の國産のものにはいはない。模倣代用品だけに、上等舶來といふことを言ふやうです。日本品の上等なものに、舶來品といふ名を使つてゐる譯ではありませぬ。上等舶來といふのは、日本の代用品が下等であつた。日本在來の國産で行けるものは、決して上等舶來といふ字は使ひませぬ。どうもあの字を使ふのは、模倣品に使つてゐるやうに見える。舶來品が上等でなくして、下等國産といふのであります。此の思想を破つて呉れといふ、商工大臣のお話でございました。至極御尤と自分等も考へます。

それにはどうしても作る者が、ちつと上等のものを拵えませんと、下等な和製を以て、上等の舶來の代りをせよと仰しやつてもそれはいけませんから、是れはどうしても作るものをよくせんといけません。勿論是れは作る方も今非常にやかましく言つてゐる。立派なものが今出來てゐるものがある。それが普及

してをらぬからいかぬと思ふ。殊に畏れ多いことであるが、今上陛下には非常に國産愛用の點には、御留意遊ばされてゐる。叡慮の程畏まれる次第であります。此の間も日常御用品を拜借をして、各地のさういふ目的趣意に於て出來た所の、展覽會には陳列をして、一般人民に拜觀をさせてゐる。さうして大御心の國産愛用の點を、徹底させるやうに努めてゐる。斯ういふことでございました。實に商工大臣として有難いなされ方でございます。それでもう吾々人民は、十分に大御心の程を體してやらねばならぬ。やらねばならぬから尙ほ一層分らせて頂かねば困ります。陛下の所で御勅語があれば、百官有司悉く調べてお答へ申上げませうが、人民が是はどうでせうといつて縣廳へ行つても、さあといふことで分りませぬ。京都市の市役所へ行つても分らんことになりませぬ。餘所でこしらへた爲、分る筈はありませぬ。恐らく商工省へ行つても、商工大臣が分りませんから誰も分りませぬ。これでは困ります。

是は一つしつかりやつて頂かぬといかぬと思つて、大分突込んで質問致し、且つ意見を述べました。「趣意は頗るよく分つたから精々努める。」といふのが、六日の日の商工大臣と、私の會見でございました。それで政府の意思のある所を、はつきり確めることが出来ました。徹底してやるといふ政府の趣意、上等品を日本で作つてゐるものを、皆んなに知らせるといふ政府の趣意がよく分りましたから、これで満足して、これ以上言つても答辯に困るといふだけで、何も私に得は行きませんから、「お忙しいうございませう。」と言つて、こちらも忙しいうございましたから、晩の汽車に乗つてこちらへ戻つて参りました。

今日申上げまするのは、茲に持つてをりまする、昭和五年五月商工省が、印刷を致しました所の、日本の重要貿易品輸出入表でございます。これによりまして逐一申上げます。是はどうかといふ問題は、私も申し上げ兼ねます。それにはこゝへ物を並べて貰はぬと分りませぬ。それで斯ういふものは斯ういふ状態だといふことを申上げます。約これから一時間三十分ばかりお聴きを願ひます。

比率上から見た國産品

國産に付きまして、私は斯ういふ風に割つてをります。

- 一〇〇%
- 七五%
- 五〇%
- 二五%
- 〇%

斯ういふ風に五通りに割つてをります。是の(一〇〇%)が絶對國産、(〇%)が絶對輸入品、百パーセント絶對國産から、零パーセント絶對輸入品迄の間に

斯う七十五パーセント、五十パーセント、二十五パーセントといふ風に、段々色の濃淡がある。斯う御承知を願ひたい。

「百パーセント絶対國産はどんなものか。」斯う仰しやつたら、今申し上げます水のやうなものである。是はどこでも流れて居ります。あれも水道になると、〇・〇〇〇〇一程輸入品が這入つて來ます。京都の琵琶湖から來る水道の鐵管はどこから來ます。考へて御覽なさい。吾々佛教の信仰者といふものは、因によつて直ちに果が出来るものと信じてをりませぬ。之に必ず縁が作用しなければ、因は果を生まぬと考へてをります。因に作用があつて、それで果といふものが出て來るのだ。單に因果といふだけでは、吾々は決して満足せぬのです。粃はいつまで經つても稻になりませぬ。粃が稻になるためには水、太陽、肥料の縁、プラトヤーヤが働かなければ果は生まない。さうすると却々京都の水は、琵琶湖の水だといつても、琵琶湖の因は鐵管其の他の縁によつて、水道の

果になつてをります。單に因果の関係なら、御苦勞ですが大津迄歩いて行つて、琵琶湖に口つけて飲まねばいけませぬ。京都の水道になると〇・〇〇〇〇一位輸入品が混つてゐる。併し此の這入つてゐる所の輸入品は、姑く此の場合を見ない。因と果を見て縁だけは見ずに、絶対國産と申して置きます。今日茲で講演する百パーセント國産品といふものは、京都の水道の水も國産品、細かい額、場合によれば〇・〇〇〇〇一から二位の輸入品は這入つてをりませうが、先づ百パーセントの國産である。斯う思召して頂きたい。

それから相互の使つてゐる農具、是は皆國産だと思つて居られたら大きな間違ひです。農具、耕作具及び部分品といふものは、昭和四年度に貳百八拾四萬九千圓輸入してをります。此の中農具がどの位輸入されてをるか分りませぬ。大工道具、さういふやうなものが、貳百八拾四萬九千圓輸入されてゐるのですから、若干輸入されて居りませう。其の農具で耕したら〇・〇〇〇一位縁の所へ、輸入品

が這入つて来るやうですから、却々米でも器具でも絶對國産はありませぬ。此の位のもは問題でないのですから是は申上げませぬ。絶對國産は先づ米である、水である、家を建てる時に於ける土である、石である、是は國産で行けます。

大抵此の邊の土は外國から輸入せずによつてをります。所が是は全然國産とばかり言へませぬ。ひよつとすると白壁の土は輸入して來ます。陶器になると土を輸入してをります。却々土も油斷がならぬ。明瞭に取調べぬと分りませぬ。それから鹽、之はさき申しますやうに、專賣局がおさへてをりますから御無理御尤も、仰しやつた値段で舐めるより仕様ございませぬ。氣に入らなければ海に口をつけて舐める。京都のやうな山國は、却々以て國産の鹽は舐められませぬ。國産でない證據を申します。食鹽は、昭和四年に四百四拾壹萬五千圓輸入してをります。其の中幾ら吾々は非國産の鹽を舐めさせられて居るか分りませぬ。これはどこから持つて來て、舐めてゐますかといひますと、關東鹽、青島鹽、青島鹽

位までは國産で胡魔化しても、ポルトセツド鹽、安南鹽、スペイン鹽となりますと、是は絶對輸入品であります。さういふ工合ですから、是も却々絶對國産といふものは少いものだ、と斯う思召して頂きます。

それから今度七十五パーセント國産品は、全體どういふものを言ふか。是は極めて粗製品——實は製といふ字も使はれぬ、天然の状態の儘で輸入されて居るものです。天然若しくは粗製状態で輸入されて來まして、こちらで加工をします時に、形をすつかり變へてしまつて、出來上つたものが七十五パーセントである。二十五パーセントは餘所のもので、七十五パーセントだけは自分の所で手がかゝつて出來てゐるものであります。

それはどんなものをいふか。洵に複雑した數學の講義のやうなことを申す様ですが、全體どんなものをいふか。一例を申上げますと、八幡の製鐵所が作つてをりますレールのやうなものが、七十五パーセント國産です。マライ半島

のバトバハの鐵鑛とか、その外楊子江の大冶から鐵鑛を積んで來ます。銑は別でございます。銑でない、鐵鑛でございます。それを熔鑛爐に入れまして、熔かしまして、銑にします。それに又カーボンの定量を合せて鋼にしたのがレールでございます。今でも鐵道省は外國のレールを使つてをりますが、最近鐵所が出すやうになつて、外國のレールよりよろしい。此頃は製鐵所のを盛んに使つてをります。此の京都驛附近は一碼、百封度レールを使つてをりますが、此のレールは多分製鐵所のを使つてをりませう。東海道全部に互つて、一碼百封度に代へてをります。洵に結構なことでございます。是等が私の申上げる七十五バーセント國産品でございます。

それからもう一つ違つた七十五バーセントのものがある。それは全體どんなものかと申しますと、滿鐵の製品のやうなものが、形の變つた七十五バーセント國産です。滿鐵は日本の領土にも跨がつてをりますが、大部分が支那の領土であります。瓦房店よりこつちだけ日本のでありまして、鞍山製鐵所が作つた所の銑、大石橋でマグネサイトから作つた所の製品、斯ういふやうな種類のもの、凡て向ふの物である。それを採る所の勞力は、向ふのものを使つて、あとはこつちで拵えて居る。七十五バーセントこつちのもので、二十五バーセントだけ餘所のものになつてをります。向ふの儘で斯うなつてそれが出來上つた時は、絶対に輸入品の形になつて、日本の國の中に這入つて來てをります。よく調べて見ると絶対に輸入品でなくして、七十五バーセントの中に入るもので、私が南洋で作つて居ります所の香水なんか、それも七十五バーセント國産であります。地面だけがオランダの地面でございますが、私の所の資本で私の手でやつて居ります。併し此の書付を見ますと、此の中(絶対に輸入品)に這入つて來て居ります。それでございますから、これは七十五バーセントと看做せないでせう。まあ私共の所のやうなものは、日本に鼻糞程も這入つて來て居りま

せぬが、滿鐵のものなど相當大きなものが這入つて来て居ります。これはどうしても七十五パーセント國産品であります。

今度は五十パーセントは、どういふものであるか。どういふ工合に、五十パーセント外國品が、這入つて来るかと申しますに、之は紡績のやうなもので、先の七十五パーセントのものより尙二十五パーセント餘計這入つて来た、即ち五十パーセント國産の紡績でございます。それでは是がどうして五十パーセント輸入品であるか。尤もこの場合綿絲紡績でございます。絹絲紡績ではございません。棉花紡績——棉花といふものは、日本に出来ませんから、外國から皆入れて來まして、さうして日本で繰つて、絲にし布にしてゐる。七十五パーセントと五十パーセントと、どれだけ違ふか、製鐵所の鐵も、紡績の布も、吾々から見たら同じではないか。一應こう思はれますが、どつこい違ひます。そんな見方をしてはいけません。棉花といふ植物の時の儘で、纖維の状態になる。

その纖維を上手に織るだけの藝でございます。紡績會社はそれを捺染にするか何にするか、つける色を餘所から貫はねばなりませんから、半分だけしか國産になりませぬ。

製鐵所の鐵鑛は、石の状態であつて、鐵の状態でない。それにある種の作用を加へて、鐵の状態に變へて使はなければならぬ。棉花は之をぶち壊してしまつて、バルブにするのではないのです。あれを棉花の儘、纖維にします。半額だけでもとの儘使つて居りますから、私は之を五十パーセントといふのです。それは分らなければ、紡績會社へ行つて見れば一番早い、決して形は變へて居りませぬ。たゞ位置のひつつけ工合を變へてゐるといふだけで、同じことではありません。製鐵所はさうでございます。それで形のある方に、パーセンテージが餘計かけられる。

今度外國で仕事をしてゐる者のことを考へてみるに、外國企業に約二十五バ

ーセント餘計かゝる勘定になります。是はどうかといふと、外國人と合辦事業をやつてゐるからであります。私は蘭領印度では、自分獨力でやつて居りますが、トルコでは合辦でやつて居ります。同じ私の事業でも二つある譯です。合辦事業になると、資本から勞力から半々に行きます。収益も二で割つてしまひますから、五十パーセントの形になつて出て來ます。そこで外國企業といふものは、却々馬鹿にならぬ。絶對國産百パーセントでやれぬことがあります。さうする時には仕方がない。七十五パーセント、五十パーセントと云ふパーセンテージで、我慢しなければなりません。若し國內で七十五パーセント五十パーセントが出來ぬ時には外國でやる、斯ういふことになります。領土の大きさはさまつてゐる。人が多くては喧嘩が起つてまゐります。併しむやみに餘所の國を分取るといふことは出來ませぬ。自然人間が飛んで出て、向ふでやらなければならぬ。其の場合には五十パーセント輸入でなくして、輸出してゐると同じ形

になります。却々外國の仕事は馬鹿になりませぬ。これで這入つて來るのをとめるのでございますから、二十五パーセント輕めるか、五十パーセント輕めるか、七十五パーセント輕めるかになります。それで外國企業は大事でございます。

二十五パーセント、是はどういふものか、一寸考へつかんやうですが、ゼネラルモーターズから材料を持つて來て、自動車を作つて居ります。スキスのタパンなり、其の他有名な時計屋が、部分品を作つて、日本で側だけはめて、懷中時計を賣つて居ります。殆ど向ふで出來てゐるものを、組立てるだけこちらでやる。日本の資本勞力が、工業的に這入りますから、二十五パーセントと云へます。外國でもさういふのがあります。少々こつちでやつてゐるといふのがあります。是が二十五パーセントでございます。

それから零パーセント、日本では何にもかゝつて居らぬ、すうつとそれなり

這入つて來るものであります。是はアメリカから自動車を買うた。外國から船を買うたといふのが零パーセント、それには外國の商店、日本のブローカーを通つたり〇〇〇〇〇〇一位違ふかも知れぬけれども、大體斯ういふのが零パーセントである。まづこの五通りの割り方によつて、國産品とはどんなものかと云ふことがお分りでございます。

愛用と奨勵

斯くの如く之を五通りに割つて見ましたら、國産愛用は之の（百パーセント七十五パーセント）を一番重くして、（零パーセント）を軽くせねばならぬといふことが、お分りになるだらうと思ひます。

それから今度は、國産愛用が縦糸になると、横糸になるのは何かといふと、奨勵でございます。

奨勵

愛用

是は一人だけでは駄目です。茲に三百人位の方がお寄りですが、愛用は誰でもやります。死んでしまつたらやれないけれども、生きてゐる限りは、飯を食つて行かねばならぬ。着物を着て行かねばならぬ。何れにせよ何か買はねばなりません。愛用は誰もやりませんと、生きて行けませぬ。奨勵は愛用の様には参りません。私共は二途かけて居ります。七十五パーセント、五十パーセントの所を私共はやりませんが、あなた方で或は官についておいでのお方、或は何か會社に出てゐるとかいふやうなお方は、自分で産業を有つて居りませぬ。自分で産業を有つて居られぬお方も、大きな意味の産業はあるかも知りませんが、直營の産業でありませんから、奨勵して貰ふといつても出来ませぬ。ですから今日は

愛用と申上げて、奨励と申上げんのはそれでありませぬ。「僕はそんなことをやつて居らんから、それでは聴いても感服せぬ。」感服せぬやうなことをいふのはいふ方が馬鹿である。私はさういふことは申し上げませぬ。

併し自分自身で何かやつておいでの方がある。「私は紡績をやつてゐる。私は農業をやつてゐる。私は手工をやつてゐる。」やつてゐるといふ人があります。やつてゐる人は奨励の方へ行かぬといけませぬ。私のやうに二股でいかぬといけませぬ。奨励といふことはどういふことか、奨め勵ますといふことであります。如何に奨め勵ますかといへば、粗末なものを作らぬ、よいものを作つて奨め勵ます。今上等舶來といふ名が、輸入品の代名詞であるといふことは、日本の不名譽であることは、是はいふ迄もありません。それをこちらで作つてゐる人は、まるで侮辱を受けてゐるやうなものである。銘々のことでないと思ふものだから、誹謗罪で訴へると云つて怒らないだけのことです。ゆつくり

考へて見ると、自分はこれ位侮辱されてゐることはない。「外國のものがよい。貴様こんな詰らんものを拵えて、」是位馬鹿にされてゐることはない。それを大勢の口から言はれて御覽なさい。たまつたものではないが、馴れてゐるから何んともない。蚊にくはれたぐらゐにも感じない。蚊にくはれるといふことは、考へて見ると侮辱されてゐる。ブーンと飛んで出て来て、人の血を黙つて吸つて行く。これ位馬鹿にされて居ることはございませぬ。夏になると仕様がな、蚊がある、蚊に吸はれる、天から罰でも蒙つたやうに思つてゐる。これと同じことで侮辱を甘受して居る。こんな不量見なことではいけませぬ。今申上げたやうに、絹織物になりましたら、「之は上等舶來の帶です。着物です。」とはいひませぬ。さういふ工合に銘々のものを作つてゆかなければならないのです。それではなければどうも自分の名譽といふものはございませぬ。

先づアブストラクト(抽象的)の論議はこれ位にして、これから逐條審議に移

ります。御面倒でも一寸辛棒して下さい。皆んな御自身に關係のあるものです。關係がないと仰しやつたら、そんな人は死んだも同様です。

輸 入 品

棉

先づ輸入品の大きなところから申し上げます。

實棉、繰棉 五億七千參百壹萬六千圓

實棉と申すと分らぬ人があるかも知れませぬが、實の這入つて居るまゝの棉のことです。繰棉と云ふのは、ジニングした棉のことです。つまり種の這入つてゐるのと、綿繰機で種を取つたのとの相違でございます。それが昭和二年に六億二千四百六十三萬圓、昭和三年は稍々減じて五億四千九百九萬一千圓、昭和四年は少々増しまして、五億七千三百一萬六千圓入れました。是は如何に

私共が國産愛用をしようと思つて氣張つても出來ぬ。仕方のないものでございます。日本で代用品を見付け出すとか、代用は出來ぬ代りに日本で栽培するか、色々の説が出て居りますけれども、是は致し方がございませぬ。永遠に五億乃至六億の輸入は、覺悟しなければいけませぬ。何故さう云ふことを云ふか、「棉位ゐる作つたらどうだ。」と云はれても、日本ではあんな下等な物は作りませぬ。日本の地面は棉を作るよりも、もう少し上等の土地でございませぬ。もつと上等な土地だから棉よりもつと儲かるものを作ります。それを損をして、國産愛用をせねばならんからと云つて、やくざなものを作る様な、そんな馬鹿なことはありはしませぬ。

それが何に變つて行くか、絹絲であります。棉を五億七千三百萬圓入れて居りますけれども、生絲七億八千四百萬圓出して居ります。五億七千萬入れたのでびつくりしたが、七億八千萬圓出して居ります。それで辻褄を合して居りま

す。然らば此れは永遠に輸入して宜しい。今度は糸でウンとはねかへしてやらぬといけません。そんなけちくさい榮螺きざえの壺に這入つてゐるやうな、日本國民ではありませぬ。徳川幕府の時は、じつと斯う云ふ工合に、榮螺の中に這入つて居りましたけれども、今日外國貿易國際貿易をせよといふ御趣意の下にある日本人が、棉の五億が恐いと云つて、七億八千萬の儲けを棄て、棉を作つては、勘定に合ひませぬ。それでございますから、五億七千萬圓は、甘んじて外國に金を出し、七億八千萬圓儲けてやれば、差引二億一千万圓儲けることになる。ですから私は寧ろ以前の儘で差支へないものである、と斯う考へて居ります。金は高は大きうございますけれども、強ひていかぬと云ふことになれば、銘々羽二重の着物さへ着ればよいのですから、棉を輸入しないやうになつたら、七億八千万圓は出ぬ。出なければ七億八千万圓で、頭の先から足の先まで、羽二重を着て居れます。金巾や木綿などの様な、粗末なものを着る人はなくなる。さう

なる迄の間、精々安いものを着て、生絲を賣つた方が得でございます。

鐵

其の次は鐵、これが却々厄介であります。

鐵 壹億五千九百七拾貳萬壹千圓

鐵は誰でも知つてゐます。是が年々増えてきて居ります。三年間一々いふと面倒でございますから、四年度だけ申します。五年度はまだ分りませぬ。一年十二ヶ月の間に、一億五千九百七十二萬一千圓輸入して居ります。三年間で一番高うございます。其の中には色々の部分がございます。板、銑鐵、其の他の塊、錠、ワイヤード、筒及び管、テー形、アングル形、丸、角及び平形、鐵帶及び繩、レール及びフィッシュプレート、線これだけ這入つて居ります。詳しくは商工省へ行つて、聞いてゐらつしやれば分ります。私は一々申し上げ兼ねます。壹億五千九百萬這入ると、覺えて戴いたら結構です。

此の鐵は八幡が非常に勉強してゐます。八幡は政府の製鐵所でございます。その外に滿洲の鞍山から來ます。却々よく出します。是れは八幡と滿洲と、恰好は變つて居りますけれども、いづれも七十五パーセント國産品であります。八幡は日本の國內でございませけれども、石は餘所から來ます。鞍山は餘所の領土であるけれども、足の下から石が出るから、結局同じことです。政府の帳面では滿洲から來ますと、零パーセントで來ます。けれども實際は七十五パーセントの八幡と同じことである。どちらから來ても構ひませぬ。あの滿洲鐵道と云ふのは、全體誰が拵えたものであるか。政府と人民の資本とが這入つてゐます。言ひ方を變へただけのことで、結局八幡と同じことです。今日のところではこういう風に兩方からよつて居りますから、もう姑く致しましたら、この兩者で大抵日本の需用を充たすだらうと思つて居ります。

此の中板鐵等と云ふものは、是れはあなた方は御存知であるか無いか存じませぬけれども、殆んど日本が作り出して居ります。たゞ惜しい哉、原料がまだ日本に得られないので、此の板鐵は七十五パーセントと、五十パーセントの中間に居ります。まあ五十五パーセントか、六十パーセントといふ所でありませう。七十五パーセント國産とまでは行きませぬ。板は鋼を使はねばなりません。あんな薄いものは、内部は別なものを使つて居るかも知りませぬ。鋼は川崎造船所が板工場を有つて居ります。私は是れを國産で、如何に出来るかと云ふことを調べる爲に、見せて貰ひました。あの所長をしてゐるのが鹿島房次郎と云ふ人で、光壽會の神戸支部長をして下さつて居る人で、私共二十年來の親友でございます。「うちの工場を見に來ぬか。」「行きませう。」「近頃良いものが出るから見て呉れ。」成る程よいものが出來ます。感服して來ました。感服しただけでは、何の役にも立ちませんから、私は實行しました。

今度自分の所、三夜莊の方に建築をせねばならぬ所がございましたから、床

板も木をやめて、鐵板を張ることにしました。壁も鐵板を張る、天井も之を張ることにしました。屋根裏だけは、溫度の關係がございませうから、一寸鐵ではいけませぬ。是だけは止めにして、あとは皆張ることにしました。木は火を著けると燃えますが、鐵は燃えぬことは有りませぬけれども、一寸こゝらの熱では燃えませぬ。先づ四千度の熱をかけませんと、燃えませぬ。普通の家の火事にはそんな熱は出ません。大丈夫でございませうから、鐵板にして置きました。それから私は鼠に物を盜まれることが大嫌ひであります。あなた方の中にはお好きな方があるかも知りませんが、私は嫌ひです。彼奴の齒のたゝんもので、家を拵えぬと、便利が悪うございませう。鐵の板でやりますと、鼠の齒は相當堅うございませうが、鐵を噛むのは餘り無いやうでございませう。私はこういう理由で、木材を使ふことが嫌なものですから、鐵板を使ふことにして居ります。今度家を建築なさる方がございませうたら、川崎に云つてやりますと、直ぐ鐵

の家が出来ます。少々火事が行つても、恐ろしい事はございませぬ。保險會社に談じてこんで、保險料を安くすることが出来ます。それを聽かぬといつたら、聽かん者には掛けぬ。値切り倒す。變な所に利益がある。私はこれまで三夜莊に家を建てるのに、淺學の致す所、木で建てて居つたのですが、今度屋根組だけはすつかり鐵を使ひました。大分非國産を除いて、鐵で拵えました。あなた方これから家をお建てになる時は、鐵の家を建て、七十五パーセント國産で家をお建てにならぬと、非國民になります。

機 械 類

それから其の次が

機械及び同部分品 壹億貳千百九萬四千圓

是れはどうも困つたもので、まだ〳〵壹億前後のものは免れまいと思ふ。發電機及び發動機と云ふものが、七百四十八萬五千圓であります。それだけは立

派に日本で代り得ます。何んとなれば、芝浦の製作所であるとか、それから日立製作所であるとか云ふものは、實によい電氣モーターを作つて居りますから、決して外國に敗けるものではございません。ゼネラルエレクトリックに比べて、敗けませぬ立派なものを作つて居ます。それでございますから、電氣に係した此の位のはいけますが、全體と云ふことになる、どうもまだいませぬ。それから紡織機械でも、豊田式機械なんか、外國へ逆さまに輸出して居ります。それ程立派なものを作つて居ります。又其の他の機械類でも、實に立派なものがございます。

けれどもそればかりでは、世の中は渡れませぬ。色んなものがございます。あらゆる機械、是はまだく／＼どうもやはり仕方がございませぬ。姑く輸入に俟たねばならぬ。俟たねばならぬのを、私は残念とばかり思はない。何故残念とは思はないか。之によつて日本では他の工業を起して來ます。先程申しました、七十五パーセントのものになつて來る。其の品物を輸入した時には、零パーセント絶對輸入品になつて來ます。けれども今度他のものをこれで作り出す時は、此の機械が縁となつて働いて來る。

今先申上げたやうに、鐵管と云ふものを輸入せず、昔のやうにセメントコンクリートのない時分では、何か穴でも掘つて流すより藝がありません。そこで水が漏るとか、色々のことがあつて、非常に都合が悪くなる。幾ら國産だといつても、これではどうも感心致しません。それも大きなならそれでも行きますが、細いになると、鐵管なしに地べたへ入れて御覽なさい。迎も行させぬ。京都市に水道が出來て、衛生上から云つて非常によくなつて來ました。其の時に絶對國産でないといかないと云つて、縁をはねてしまつたら、果が非常に悪くなる。それで機械の輸入といふものは、電氣器具の様に變り得るものは、外國のものに變り得るけれども、代り得ないものは、依然上等舶來のもので

ないといけませぬ。まだ三年や五年は、上等舶來の名を向ふへやらねばなりませぬ。考へて見ると縁としてやるのだから、一向差支ないわけでございます。

羊 毛

其の次のがまた厄介であります。

羊毛 壹億百八拾壹萬五千圓

一寸壹億圓、これは遺憾乍ら、どうしても代へることは出来ませぬ。羊毛を入れて、生絲ではねかへしてやるより仕様がなない。あなた方羊はどうお考へです。お飼ひになつたお方があるかも知りませぬが、あれは狭い所へ入れまして、餌を澤山食はせれば出来ます。併し其の餌が、どの位の地面から出来るかと申しますと、「羊さんお前の足で勝手に食べてくれ」と云ふと、丁度一ヘクタール地面で、緬羊一頭飼へることになります。一ヘクタールと云ふとどの位の地面であるか、それを知らんやうなお方は、現代に餘程後れて居る人です。も

う五年も経つと、分らぬ様なお方は、盲目も同様に取り扱はれます。今更申し上げる必要はございますまい。分らぬお方は、家へ歸つて小學校の子供に聞いて御覽なさい。

一ヘクタールの地面に、一頭の緬羊が放牧される。それで吾々の一枚の着物を拵えると、大人一人三ヤールから三ヤール半位の着物を、一頭のメリノが作つて呉れる。さうすると一ヘクタールの地面で、羊一頭が、吾々に一枚の着物を着せて呉れるといふことになるのです。さう云ふ大面積の草を、羊に食はれて行つたら、日本帝國を今の五十倍にしても、日本人は着物が着れぬ。斯う云ふ馬鹿なことは出来ませぬ。是れは人間の住んで居らぬ所の、洵に下等な所では、羊を飼ふも宜しうございます。ぎつしり詰つて、何ともやつてみやうがない。生産制限をしやうか、首を吊らうかと言ふやうな我が國では、斯う云ふものは飼へませぬ。行詰るといふことはあるけれども、これは生き詰りに詰つて居

る。こんな所では逆も羊のやうな、四つ足を容れる餘地は更にございませぬ。日本で先づ動物を容れるのは鼠位のものでせう。羊毛壹億輸入されて居りますが、どうも致し方がございませぬ。必要に應じて、是は棉と交替してくれるかも知れぬ。木棉の部分を食べふかも分りません。どちらが多うなるか少うなるか、見當はつきませんが、兎に角依然這入つて來るものと、御覽になつてよろしうございます。

併し此の壹億も、皆日本人が着てしまふ譯ではございませぬ。先程申しました五億七千萬も、決して日本人が全部着て居るのでないのです。之をちやんと織物に變へまして、四億壹千貳百萬圓外國に出して居ります。一億の羊毛でも矢張りさうでございます。色んな恰好に變へまして、外國へ出て居りますから、必ずしも國內で、消費されてしまふものではございせんのです。或は毛の中に、綿を交せて織られたものもございます。獨立してモスリンに出來た

のもございます。色々の恰好で出て行きますから、原料で壹億入れたつて、何も残念な惜しいことはありません。斯う云ふものは輸入した方が得でござい

肥料

肥料 九千六百貳拾貳萬參千圓

と記入してあります。是は私はどうも已むを得ぬとは申しませぬ。已むを得ると思ひます。絶対に肥料の輸入をとめよとは私申しませぬ。若干輸入致します。その外は日本で肥料を得る餘裕がございます。硫酸アンモニヤでも日本で作り得られます。茲に書いてある肥料は、硫酸アンモニヤは這入つて居りませぬ。油糟、骨粉其の他が這入つて居ります。硫酸アンモニヤは別でござい

此の油糟と云ふのは大豆粕でございます。是を七千五百九拾壹萬五千圓輸入して居ります。是はアンモニヤの方が大豆粕よりよいと思ひます。引合はぬ爲めか何か知りませぬ。私は引合はぬとは思はぬのですが、百姓が鈍いのだと思ひます。

豆を畦へ植て居るところもあるやうですが、畦へ豆をもつて行つて植るのは差支へない。ところが日本人は、三百六十五日、大豆若しくは大豆から製せられたものを、食べぬ日はない。恐らくあなた方もそうせう。大豆を取り上げて、食ふことならぬと云ふ御法度が出たら、皆んな日本人は青い顔をして死んでしまふ。豆腐は何から拵える。味噌は何んで拵える。豆のものを食はぬ人がありますか。そう云ふ人は無い筈です。

病院に行つて、おもゆを吸うて居るやうな病人は別です。そんな者は大豆を食はぬ手合です。それですから大豆を食はぬ人は、國民たる資格のない人と云ふことになる。病院組だから吾々の議論から云ふと、生活制限を受ける人々です。外の人は皆大豆を食つてゐる。

それだけ日本人の食はねばならぬ大豆を、何故作らぬか。之を各戸で播いて御覽なさい。十月頃に出來ます。之を搾つたのが油糟です。尤も油糟には菜種もございます。其の外色んなものもございますけれども、大部分大豆糟です。是は日本で作ればよい。棉實に於ても、實棉及び繰棉の、あの實棉を買つて、日本の中でデニングやつて、糟の棉實を搾つて、油を取れば、其の方が得です。向ふにささぬだけ此頃は失業者保護になつてよいでございませう。此の油糟はこんなに輸入せぬでもよいのです。

次は骨粉ですが、此骨粉は牛骨其の他獸類の骨でございます。こんなものは詰らんものだと云つてしまへば、それまでですけれども、是は百姓の方でしたら、もう少し考へますと、骨粉の使用量は減せられる。此の骨粉の需要は、主

として燐酸でございます。併し燐酸ばかりでございます。窒素も混ぜてをります。強い燐酸に弱い窒素が混じてゐる。これはどこから輸入して居りますか、しつかりしたことは分りませんが、多分支那でございます。斯う云ふやくざもので、量の嵩ばるものは、大抵支那から來て居るやうです。

油糟は何處から入ると書いてございますが、骨粉は書いてございませぬ。豆糟は七千五百萬圓の中、支那から四千萬入れまして、關東州三千二百萬、英領印度二百十萬入れて居ります。骨粉は一寸分りませぬ。天津あたりから入ると云ふ者もあります。何れ支那から輸入するのでございませう。

礦油

其の次が

礦油 九千貳百九拾貳萬五千圓

礦油と云ふと、礦物の油でございます。日本では石油と言つて居ります。是はどうも仕方がございませぬ。一般に自動車で走るやうになつた今日では、益々仕様がございませぬ。日本でも若干出るには出ますが、日本産だけではどうも仕方がございませぬ。

是は今の獎勵の方で、私の十數年抱懷して居る意見でございます。近頃自分の意見を、自分では微力其の任に堪へませぬから、實行致しませぬけれども、強力で私より智慧のある者が、實行して居ります。固形體のカーボンに、水素をくつけまして、うまく液體に化けさせて、油にする方法でございます。多年考究されて居りますが、漸く最近獨逸がそれを實行して呉れました。日本はまだそんな方法を考へませぬから、五百萬圓とか參百萬圓持つて行つて、買つて來るでございます。餘所の考へたものを買つて來るなんか、詰らぬ話でないかと思はれますが、私は賢いと思ひます。どうしても考へられぬものは、金を儲

けて買ふ用意をした方が早うございます。何の商賣をして儲けても、金は同じことです。それを考へねばならぬとなると、誰も考へることは出来ませぬ。儲けるのは誰でも儲ける。其の中から租税を取上げて、向ふに拂つたらよい。私共を列べて、カーボンに水素を結びつけて、水にすることに、壹圓出せといへば出しも致します。發明しなければ詰らぬといひますが、それより金を儲けた方が早うございます。暇のある賢い人に考へさせて、五百萬圓で買つて、利益を占めた方が手つ取り早うございます。

木 材

其の次が

木材 八千八百八拾參萬七千圓

是が怪しからぬ。此の中八千五拾七萬六千圓と云ふものは、絶対に買はないでもよいものです。日本國民は買はなくてもよいものを買つてゐる。洵に不思議

に堪へません。こんなことでは日本國民の愛國心なんと云ふものはあやしげになつて參ります。私はこれに就いて、「帝國の前途」「國民の自覺」に痛論して居りますが、此の中には御覽になつて居る方が、澤山ゐらつしやるだらうと存じます。私が詰らんのか、あなた方が詰らんのか、兩方寄つて役に立たんのか知りませんが、結果は買はなくてすむものを買つて居る。買はなくてすむものを買つて居るだけならまだよろしい。それを皆燃やしてしまふ。燃やして居らぬと云ふことはいはれませぬ。此處に市長閣下がお居でになります。其の邊の事情はよくご存じの筈です。京都市の火災統計はどの位でございませう。市役所へ行つてお聽きになればすぐお分りです。府でも統計を有つて居りますし、警察でも統計を有つて居りますから、何處へ行つてお聽きになつても、どれだけ焼けた家があるかお分りになります。

昔から鐵と土と石で造つたものゝ焼けたことはございませぬ。四千度近い熱

をかけたら焼けませう。けれども普通の所にはそれだけの熱はございませぬ。だから焼ける氣遣はございませぬ。木材はもつと低い熱で、ポーツと焼けてしまひます。初めから焼く積りなら、買はんと置いたがよい。それですから私共極度迄木材を減じて居ります。前には鐵板がなかつた。石の板、そんな譯には行きませぬ。コンクリートの板之もどうも感心致しません。御承知の如く一般に木の板が使はれて居りました。私も從來この板を使つて居りましたが、今度拵えるものは、木の板を使ひませぬ。木材の輸入は數で行きますから、日本全體で約一億と云つて居ります。年に依つて色々でございませう。輸入して來たこの八千萬圓の木材を、殆んど毎年皆火をつけて燃して居る。同じ燃やすなら石炭を買つて、ボイラーの中で燃やす方が幾らよいか分らぬ。八千萬圓あれば一千万圓の石炭が買へる。一千万圓の石炭を燃やせば、大分の馬力が出ます。同じ燃やすなら少しでも役に立つ様に燃やさなければならぬ。是は直ちにやりかけぬといけませぬ。

私共奈良線で京都へ出て參りますが、汽車の上から沿線を見ると、あやしげな借家を建て、居ります。これも又濫費に終らねばよいがと見て居ります。經費の都合で已むを得ない事かも知りませんが、建てるなら何故土と石とで建てぬ。滿洲の百姓の家に火事のあつたと云ふことはありませぬ。日本人が建てた家は直きに焼けます。支那人のは一寸も焼けませぬ。土は焼けませぬ。

此の頃は煩瑣極まる建築法によつて、何を一寸高うしなくてはならぬ。此處はこうで彼處はこう云ふ工合にと云つた風に、却々六ヶ敷うございしますが、肝心の防火に就ては何にも考へて居らぬ様です。御無理御尤で我慢して居るところを見ると、國民は天から受けた所の天罰なりと思つてゐるに違ひない。私は悪いことをした事がないから、罰は嫌です。私の家は父の時代から建て、あるので、全部木材を使つて居ります。少なからず危険を感じて居ります。保險をかけ

て埋め合せをつけてやらうと、一晚保険表と睨み合ひをしました。結局保険金だけ損であるから、焼かぬと云ふ決心をした。焼くと云ふ決心なら保険に掛けたらよい。京都の町の眞ん中なら、自分は焼かぬと云ふ精神でも、隣りから來ると云ふことがあるから仕様がありませぬ。さう云ふ所は保険を掛ける必要がございます。私の所のやうな獨立家屋は、保険に掛けたら掛け損と云ふことになりません。保険屋は恨んで居らうと思ひますが、保険金を出すだけ氣を付けて火事をやらぬ方が結局得だ、こう云ふことに決めて居ります。どうも木材で家を建てる位馬鹿なことはない。愚の骨頂です。あなた方もなるべくおやめになつて、新築なさる時は、鐵板をお使ひなさる方が得策です。木材を使つて八千萬圓空氣の中で、燃焼しても何にもなりません。こんな馬鹿な燃し方をするより、ボイラーの中で燃焼する方が余程賢い。お互に非國民の譏を受けたい様に心がけねばなりません。

此の中チークが百六拾五萬圓這入つて居ります。これは代用の出來得ないものでございます。造船材料とか何とか極く已むを得ぬものです。此の木材は先の比率から行くと、零パーセントのものでございます。どうも日本には出來ないものですから仕様ございませぬ。

豆 類

其の次が

豆類 七千八百七拾四萬五千圓

却々澤山豆を食つて居ります。日本人はこれだけ澤山豆を食つて、豆糟を輸入して居る。この中大豆が六千萬圓、小豆が壹千萬圓、大豆と小豆で七千萬圓になります。三百六十五日大豆なしには行かれぬ。米麥と云ふ熟字がありますけれども、米麥と云ふことは間違ひでございませぬ。この熟字は日本人には通らぬ。米豆といはねばなりません。米と豆で吾々毎日生きて居る。

ところが豆のことはとんと農林省いひませぬ。米のことは氣狂ひのやうに云ひますけれども、豆や豆糟のことは云ひませぬ。豆七千八百萬、豆糟七千五百萬、之を合せまして壹億五千萬程は、豆關係が輸入されて居る。斯う云ふ主要食料品を輸入して置きながら、對策を講じぬ。農林省のお役人連も、ちとこの方面に意を用ひて、何とか對策を講じて戴きたいものです。

小 麥

其の次が

小麥 七千〇八拾九萬六千圓

是は致し方がございませぬ。何故豆の時には、國民の寛仁大度迄稱讚して置きながら、小麥になると已むを得ぬといふのか。是は京都にお居で遊ばすあなた方で、農業をやつてお居でになる方があるかも知れませぬが、大抵は麥も米も作つたことのない、食つて居るばかりの方が多うございませう。小麥は成熟期

が遅いのです。まだ今頃は熟しませぬ。小麥の熟する迄待つて居ると、稻を植ゑることが出来ませぬ。大事な米が取れないことになる。小麥を植ゑずに、外ものを植ゑて行かねばならぬ。それでございませうから此の小麥だけは、已むを得ぬのでございます。

餘り堅い話ばかりの様ですから、一寸面白いことを申し上げませう。京都に饅頭と云ふものがございます。知らぬ人は居ない筈です。あの饅頭は國産か、非國産か考へて御覽なさい。餘つ程商工大臣に訊いてみやうと思ひましたが止めおきました。濱口さんも外の事はえらいかも知りませんが、こんなことはお分りにならぬやうです。實はあれは皆非國産、零パーセントのものです。饅頭一杯食べたらず國民と云ふことになりませうから、私もこれから成るべく饅頭は食ふまいと思つて居ります。こんなことを饅頭屋が聞いたら、大谷が餘計なことを言ふから、饅頭屋の商賣があがつたりになつたと云つて、饅頭屋が私をな

ぐりにくるかも分りませんが、饅頭屋の商賣があがつたりになつたら、蕎麥屋に代つたらよい。饅頭蕎麥、それをやめて「そばく」と書いたらよい。蕎麥は百パーセントのものである。けれども蕎麥も足りませぬから、北滿洲から輸入して居ります。今は輸入して居りますけれども、是は防遏出來ませう。饅頭は出來ませぬ。

全體此のパンを食ふなんか不了見です。私共もパンを食べては居ります。食べては居りますけれども、パンが滋養だから食はねばならぬと云ふ様な、不了見だけは起すものではありません。食へる時には蕎麥粉でも害のないものです。これはグルーテインの無いものですから、サラ／＼になります。京都の蕎麥は色が白うございます。あなた方白いからよいと思ひでせうが、元來蕎麥粉は黒いもので、餘程の名人がやりましても切れます。箸で一尺位高くしーつと抓み上げて食ふのは、みな小麥が這入つて居る。小麥は粘りの強いもので

す。支那の饅頭は一丈位のびます。けれども蕎麥にはグルチニアスな所がありません。が併し菓子等には餘計入れることが出來ます。豆糟でも私は菓子を作りました。輸入品の黠から云へば同じことですが、さう云ふ代用品はいくらでもあります。小麥のパンでなくとも、蕎麥パンも出來ます。豆糟パンも出來ます。形は非國産でもよい。あの多孔質の孔を埋めて、板にせねばならぬと云ふことはありませぬ。小麥粉を餘計に使はぬやうにして頂く。是は實行出來ること、思ひます。

硫酸アンモニウム

其の次が

粗製硫酸アンモニウム 四千八百八萬六千圓

これは滿鐵がもつと氣張らんといけませぬ。滿鐵が一つ氣張つたら何でもございませぬ。滿鐵に氣張らせるが一番よいのです。是が氣張り出したら四千八

百萬圓出して、其の上に輸出します。是はあなた方に申し上げても駄目なことです。仙石さんの腹一つにあると存じます。満鐵で一つうんとやつて戴きたひと思ひます。

石炭

次に

石炭 四千貳百九拾七萬八千圓

入れて居ります。尙ほ貳千參百萬圓輸出して居ります。こんなものはどつちでもよろしいものでございますから、申し上げますまい。議論をしますれば、日本の石炭を若干残して、支那の石炭を燃やしたらよいやうであります。どうせ喧嘩は向ふです。のだとすれば、必要な時に向ふのを使へばよいと云ふことになります。

護謨と樹脂

其の次は

護謨及び樹脂 四千百六拾九萬壹千圓

生護謨參千參百八拾八萬五千圓入れて居ります。護謨と云ふものを弾力性のものに使ふと云ふことになると、ヘヴェア・ブラジリエンス (Hevea brasiliensis) の汁から採るより仕様がございませぬ。それは熱帯でなければいけません。ぬから、七十五パーセントでやるより仕方がございませぬ。税關の帳面では零パーセントになるけれども、實際は七十五パーセントであります。これより外方法がございませぬ。

所が樹の脂のうち松脂參拾七萬五千六百圓と云ふものは、是は輸入して居りましてはいけませぬ。尤も松には色々の種類がありまして、松によつてその脂が違ふから一概にはいへませぬ。全體ヨーロッパでは、トランスシルバニヤが多く出して居ります。日本の松でも出ねばならぬ筈です。二十年もしたら脂の出

るやうな松が大きくなりますから、一番よく脂の出るのを今植えておいたらよい。何でもないことです。林學者は何をして居るのかと思ふのです。私は今茲でどの松がパーセンテージが多いと云ふことは申し上げ兼ねますが、松の種類でも二十ばかりあります。其中若干は出なければならぬ筈です。そのみならずパイン、ニドルオイルなどと云ふものは、松の葉から採つた油で、香油でございませう。是れはシベリヤのヴキアツカ邊で出して居ります。又松脂は今ルーマニアになつて居ります、トランシルバニアからも出して居ります。佛蘭西も出して居ります。ヨーロッパ、アメリカは大體に松脂を多く出して居ります。松の中で何松がよいか追つて一つ詳しい研究をして見ませう。私は香水屋が本業でございませうから、此の方は知つて居ります。商工大臣に相談して、松脂の研究をせねばならぬと思つて居ります。此の次に書物にする時には、詳しく書いて置ませう。是は日本で全部立替られるものと思つて戴きたい。

自動車類

次に、

自動車及び同部分品 參千參百六拾萬八千圓

是れがいけませぬ。此の頃になつて日本政府がびつくりして、軍縮によつて工場をどうやらせぬといかぬから、自動車を拵えようと、漸くそれと氣附いた様ですが、何で今迄やらなかつた。二十年來三割五分の税をかけて、妨げて、代用の自動車獎勵はちつともやらなかつた。濱口さんの政治が悪いと云ふのはありませぬが、代々の總理大臣に心得の悪い人が出て居つた。全體こんな政治があるでせうか。馬鹿より罪が重いと私は思ひます。此頃になつて何言つて居ると憤慨してみても、今更仕様がございませぬ。それでもせぬよりよろしいからやつて貰ひ度いものです。

砂糖

輸入品 (自動車類、砂糖)

其の次が

砂糖 參千百拾五萬九千圓

これだけ入れて居りますけれども、精製して出して居るからよろしうございませう。參千百拾五萬九千圓入れまして。貳千九百九拾七萬四千圓出して居ります。先づ似たり寄つたりのものです。粗製糖を入れて、精製糖を出して居りますから、結局釣合がとれて行つて居ります。

採油用原料

其の次は

採油用原料 參千七拾七萬八千圓

輸入して居ります。其の内譯、菜子及び芥子一千百十九萬九千圓、棉子六百三拾八萬圓、胡麻子參百七拾六萬圓、亞麻子貳百九拾五萬五千圓、大麻子貳百拾壹萬壹千圓、蓖麻子百九拾參萬貳千圓、荏胡麻子百八拾萬三千圓其他六拾參

萬參千圓、斯う云ふ風になつて居ります。

之を見ますと菜種なんか日本で出来るものです。此の間私は京都府の其の方の専門の人に會ひまして、菜種はどうですかと聽きました。一段四石位出来るやうになりましたとのことでした。洵に結構なことです。所がそれをやりますと、少し米の方に尻尾が觸れます。あれは乾燥を莢豆の儘で十分さ、なければ離れませぬ。完全に熟するまで置いて置かねば、小麥と同じく尻尾が出る。小麥よりは少し菜種の方が早く熟しては呉れます。もう少し農事試験場で考へまして、早熟の種を播き方から何から上手にやりますと、ざりく一杯の所で行きませう。米の方ももう少し苗代を遅らすか、何かすれば、融通點はあると信じます。是は十分出来るものでございませう。

棉實は輸入したが宜しうございます。胡麻、亞麻、大麻少々作ればよい。荏胡麻は滿洲で作つて居ります。此の荏胡麻はもう少し日本でやるとよいと思つ

て居ります。是はペリラ(*Perilla Oeimoides, L.*)と謂ひまして、一寸申上げて置きますが、奇妙な油を有つて居ります。關東州、滿洲のペリラの油が一番よろしうございます。實の恰好が胡麻に似て居りますから、胡麻と云ふのでございますが、草は胡麻ではありません。紫蘇と同じく唇形科に屬して居ます。元來亞麻の油が一番早く乾く、乾性の油です。ペンキや何かに入れると早く乾きます。是はカンジート・オイルより少し早く乾きますから、リンシードオイルの代用品になるのであります。荏胡麻の油が完全に代用になるのであります。此の中亞麻、リンシードは纖維を取りましても結構なものであります。リンシードはアルゼンチン、アイルランド、ラト莽ヤ、バルチックからよく出しますから、日本はこれ等の國々から輸入して居ります。之に代ゆるに或は滿洲の荏胡麻を以てし、日本の中にも植ゑるとすれば、百パーセント、七十五パーセントに持つて行くと云ふことが出來ると信じます。

不乾性の油の蓖麻はリチヌス、コムニス (*Ricinus communis*) から採ります。リンシード・オイル (*Linseed-oil*) を乾性の極端としますと、リチヌスコムニスは不乾性の極端に這入ります。印度が本場でありますから、印度から買つて居ります。日本で出來ぬこともございませぬが、餘り餘計出來る見込はございませぬ。滿洲で作りますと、温度が足りませぬ。臺灣で作つても宜しうございます。可なり肥料の餘計かゝるもので、一寸厄介でございますが、是は臺灣で作つたらよいと思ひます。

植物纖維

植物纖維 貳千九百四拾萬圓

麻其の他でございます。貳千九百萬圓は多いやうでございますけれども、それ位入れぬといけません。こんなものは無暗に國産代用は出來ますまい。國産品の重なる織物に交せて、使つた方が得でございます。恐らく今でもさうな

つて居ると信じます。織物の方で國産奨勵してやれば、斯う云ふ原料は多々益々よろしうございます。

米 糶

其の次が

米及び糶 貳千貳百七拾八萬壹千圓

年が凶い時でなければ這入つて來ませぬ。豐年には餘り這入つて來ませぬ。凶年には入れねば死んでしまいますから、必需品と見たらよろしうございます。南京米のやうな不味いものは、飢を凌ぐ位が關の山で、毎日喰はされてはたまつたものでございせん。

毛 織 物

毛織物 千九百九拾四萬壹千圓

是は残念なこと乍ら、羊毛がございせんから仕様がございませぬ。羅紗、セ

ルヂス、アルバカ類、千貳百參拾貳萬七千圓其の他になつて居ります。是は亦羊毛として入れて加工したもの、方で、零パーセントを五十パーセントで行くか、二十五パーセントに持つて行くか、パーセントを此の方に向けるやうにしなければならぬ。毛織の原料を千八百七拾貳萬入れて居ります。是はパーセントで取るより仕様ございませぬ。

鉛

其の次が

鉛 千五百〇六萬參千圓

是もどうも仕様ございませぬ。鉛を使はぬ様にするより仕様ございませぬ。

パ ル プ

製紙用バルプ 千參百四拾八萬五千圓

是は一番最初に申しましたバルプは輸入品ですか、國産ですかと伺つたのは

輸入品 (米と糶、毛織物、鉛、バルプ)

それです。官報に是が這入つて居るか居らぬか問題です。あなた方の使つておいでる紙は、大部分輸入パルプを使つて居りはしませぬか。併し是は私が一例として、商工大臣に國産ですか何ですかと云つて伺つたので、是は幾等輸入されても差支へありません。紙として輸入されてはかなひませぬ。紙を、ぞんざいに使はぬやうにして貰はねばなりません。たかゞ紙一枚ではないかと云ふやうな、洵に不了見を起して、パツ／＼と使つてしまふ。紙を使ふにしても用をなさして使ふのはよろしい。用をなささるることに使ふことは慎まねばなりません。

京都の人を東京人は吝ん坊だと云ふ、京都の方は紙一枚でも無駄に使はない。必要なことにはドン／＼使ひます。奉書でも大高壇紙でも使ひますが、必要なことには塵紙一枚も使はない。純潔な京都人なら、さう云ふ教育をこんな小さい時分から受けて來て居るには違ひない。其の教育に反らうておいでる

かどうか知りませんが、是は皆國民に向つて輸入品だぞと云ふことを、示して頂くがよいと思ひます。

それから其の次に色んな紙がございます。印刷用紙、包装用紙、燐寸用紙、模造用紙、筆記用紙、板紙等色々ございます。包装用紙などあんな赤黒いものを、何で輸入して居るか、不思議に堪へません。

燐 礦 石

それから

燐礦石(フオスフォライト Phosphorite) 壹千參百四拾五萬四千圓

是は肥料に使ふので、仕方ございませぬ。

煙 草

煙草 壹千參百貳拾七萬圓

日本産煙草を喫ふのは、國産愛用で洵に結構ですが、どうも日本の煙草は質が

よくない。上等なら兎に角兩切煙草なんか良いのは少ないと思ひます。上等を喫んで居る人は論外、やくざな煙草を喫んで居る人が、苦しうていかん、辛うていかんと云つて、終ひまで喫はずに、半分位で捨てておゐる。捨てる位なら初めから火を點けぬがよい。私も煙草は好きだが、喫ふ時にはいつもパイプで喫つて居ります。あれで何か國産のきざみを喫うて居ります。外國産の煙草を喫う時は、シガレットは好きませぬから、葉巻を喫つて居ります。これを初めから最後の灰になる迄喫うて來ます。其の儘喫うと脂やにがこもつて來て、終ひに不味くなりますので、シガターのやうに太い長いものは、初めから短かく切つて置いて、何遍も喫うて居ります。三つに切れば三回新しいのを喫ふことが出來ます。私は外國に行きますと、シガー五十本だけ持つて來ます。此の頃は多く日本に居りますから、そんなことはありません。

臺灣總督府の作つたつぎたかは、高い割に不味い。けれども仕様ごさいませ

ぬ。値段の高いのは高いとして、何とか美味くならぬものでせうか。技術拙劣にして残念なことであります。外國品をやめて臺灣煙草を買ふ。つぎたかでないまづたか(不味高)ですが、それでも我慢して喫うて居ります。之をラストワンの灰になる迄喫うのです。全體喫うために買ふのです。喫はぬのに誰が買ひませう。喫ふのなら最後まで喫はねばいけません。あなた方私の講演が終りましたら、早速煙草に火を點けてお喫ひになるに違ひない。終ひ迄お喫ひになつたら百點。お捨てになつたら、國産拋棄で零點と云ふことになります。さう云ふ不心得の國民があつたら日本は駄目です。それでなかつたら兩切のやうな不良なものを、政府が作るのが間違つて居ると云ふことになる。その上二割値上して不味い上に高い。井上さんは下げる／＼と云つて、貧乏人が借金の斷りを云ふやうに言つておいでの様ですが、一寸もお下げになりませぬ。

兩切は上まで葉が詰つて居ります。あそこは綿で差し支えない。誰も先の先

まで喫ひませぬから、脂取りだけの藝しかしませぬ。脂取なら何故あすこに綿を詰めて置かぬか。綿は勿體ないが、綿の方が安い。紡績の打綿で差し支えない。よく消毒して置けば、危険なことはございません。どうせ政府の商賣ですから、押しつけて取るので、取り得でせうけれども、もう少し國産獎勵愛用を徹底して貰はねばならぬ。大藏省自らあゝ云ふ不經濟なことをやつて居つてはいけません。煙草專賣局の行爲なんか恕すべからざる不調法と思ひます。私共は貴族院か衆議院へ出ますと、大藏大臣となつて、改めてやりますが、役が違ひますから、こゝらで不平を漏して居る位のものです。

皮類

其の次には皮類、牛皮や水牛の皮です。

皮類 壹千貳百八拾壹萬參千圓

隨分皮を輸入して居りますが、日本に動物が居りませぬから仕方がない。

代用品を紙に求めても、バルブを輸入しなければならぬから同じことです。

麩と飼料

其の次が

麩 壹千貳百參拾八萬四千圓

飼料 壹千貳百貳拾六萬圓

此の麩は味の素、麩などの原料で、大部分人間が食つてゐますが、一部分は勿體ない事に動物に食はしてゐます。合計しますと貳千四百六拾四萬四千圓。然し國産品を以て代用し得べき輸入品と云ふ中に書いてあります。主なる輸入國は支那でございます。代用し得べきとございますから、商工省の方では何か代へ得る。——飼料としては大麥の皮を食はすか、米の糠を食はすか——何か代へ得ると考へて居るのでせう。私は存じませぬ。誤魔化すことは嫌ひですか——知らぬことは知らぬと云ひます。——知りたければ分る所へ行つてお聽

わ下ろす。

紙

其の次が

紙 壹千百四拾八萬圓

是は色々な紙です。千百四拾八萬圓も買つてゐますが、製紙會社は一體何をして居るのでせう。智恵がないか、技術がないか、資本が無いのか、五千萬圓、六千萬圓の資本を使つて居りますから、資本がないとはいへませぬ。技術が駄目か何かに原因するのでせう。篤と取り調べを要します。あなた方もこれからお考へになつて、紙は無駄にお使ひなさらぬがよろしうございます。是は一々申上げれば面倒でございますし、紙と云ふものは私が申上げなくても、あなた方がよくご存じの所ですから、申し上げますまい。

アルミニウム

アルミニウム 壹千百拾萬壹千圓

仕方ございますまい。アルミニウムは、ボーキサイトから採つて居ります。粘土からも採れます。是はもう少し化學工業が発達しましたら、或は自足自給する時期がございませうが、可なり安い電力が手に入らぬと出来ぬと云ふことを聞きます。電氣分解をやりますと、大量に要する譯でございます。どんな工合かよく知りませぬ。

アルミニウムの代用品七十五パーセントの中、マグネシウムと云ふ鑛物がございます。これが或る點迄アルミニウムの代用をします。

是は滿洲が持つて居ります。又岡山縣に三石と云ふ所がございます。山陽線を通つて居りますとあります。あそこで出ますボーキサイトに、アルミニウムの可なり高い含有量のものがあります。これらから出るかも知れませぬ。又信州に目玉石と云ふボーキサイトが出ますが、之は原料には出来ません。是は

元來印度が餘計出して居ります。然しフランスのマルセーユの東の方ツローン迄の間、あの附近にも大分出して居る。私一昨年行きました時に見て参りました。鐵道を通りましたので、鑛山は見ませんでした。隨分出して居ります。マルセーユから積んで居ります。まだあつちこつちあるやうでございませう。日本では三石でございませう。是は私考へたらどうかなるだらうと存じます。

苛性ソーダとソーダ灰

苛性ソーダ及びピソーダ灰 壹千百參拾壹萬四千圓

國産獎勵品の一つで、少しは日本で造つてゐますが、大部分は輸入してゐます。然し近き將來には、全部國産で占める様になるでせう。現在日本では仕方がございませぬ。之は鹽から採るより外ありません。鹽は今專賣法になつて居ります。自分の舐める鹽すら足らぬから、輸入して居ります状態では、日本の

食鹽では採ることも出来ませんが、關東州なら出来るかも知れませぬ。關東州から粗製鹽を輸入して來まして、それからソーダだけ引離して、苛性ソーダを作ると云ふ工業が出来ねばならぬわけです。

洵にあの鹽專賣法と云ふ法律は、馬鹿な而も古い法律で、其の時分は舐める鹽ばかり思つて居て、化學工業の鹽と云ふことは考へなかつた。五百萬圓程の國庫収入ですが、這入つて來る方が結構なものだから、歴代の大藏大臣が却々やめようといはない。やめたつて大した問題でないのですから、事業の節約ばかりしないで、こう云ふものゝことを考へて下さると洵に結構です。私共は鹽專賣は惡法なり、と書物に書いて置きます。之を以てソーダ工業と云ふものを、日本から奪つてしまつたから、いつまでもソーダを輸入しなければならぬことになつたのであります。

硫酸ソーダ

輸入品 (苛性ソーダとソーダ灰、硫酸ソーダ)

それから次が

粗製の硫酸ソーダ 壹千五萬壹千圓

是は日本で出来ませんが、矢張り大部分は外から入れてゐます。用途は硫化ソーダ、製紙原料のサルフェートパルプ等でございます。

亞鉛

其の次が

亞鉛 壹千貳萬七千圓

多く入れてゐますが、國産品もあります。昭和二年に大牟田で七千トン、亞鉛板五百トンを拵へてゐます。

錫

錫 九百貳拾萬貳千圓

之も仕方ございませぬ。鹿兒島が錫を出してをつた 谷山も近頃はありませぬから、シンガポールの錫で間に合せねばならぬ。谷山は上等、シンガポールは下等といふことはございませぬ。

私は鹿兒島の錫器は好きでございます。茶器は恐らく世界一でございませう。鹿兒島の錫は値が高うございますので、金持でないと却々買へませぬ。この錫茶器の蓋は一吋位の時間ではしまりませぬ。十分位でしまつて来る。随分重いものです。此の中に這入つて居る空氣の逃げばがない位に上手に作つて居ります。却々西洋にもこんな錫器はございませぬ。

合成染料

其の次が

合成染料 八百九拾四萬貳千圓

大阪の日本染料、廣島の帝國染料などで製産してゐますが、まだ完全に自給する程ではございませぬ。是は京都は澤山買つて居ります。色んなものがござ

輸入品(亞鉛、錫、合成染料)

います。自給出来るやうにいつて、一時は政府も非常に力を入れましたが、まだ自給出来ませぬ。終ひには出来ませう。出かさねばいけません。是は奨励の方でございます。愛用の方からは已むを得ぬ、代用國産染料を使ふより仕様でございます。

これから夏向になつたら、紺とか何とか黒いものを着ぬことにして、なるべく一寸でも染料の少い白いものを着ておるでなさい。一番理想は羽二重だけけれどもさうもいませぬ。陛下の御衣のやうに白羽二重を着るといふこともいけません。黒い所に白い模様のある紺——飛白といひますが、さうでない飛黒の方を着ぬといかぬ。全體白い方がよいのです。さうすると餘程染料が少くなります。併し白い着物はよされる。よされるのはなるべく辛抱して居つたがよろしい。それが氣に入らぬなら手製で度々洗濯をやらなければならぬ。其の洗濯ソーダが亦輸入品ときてゐます。

綿織物

綿織物 八百五拾七萬四千圓

是は日本で盛んに拵へてゐますが、まだ何十種かの特種品は輸入してゐます。その中の金高の大きいものは、綿ビロード及びマンチエスターの上等捺染更紗などでございます。要らぬものは愛用の點から禁じなければならぬといふ警告だけ發します。是は警告附で通過します。

鳥獸肉

其の次が

鳥獸肉 七百八拾七萬八千圓

内牛肉(生) 七百拾五萬七千圓

澤山牛を食つて居ります。私はこんなに牛肉を食はないでもよいと思ひますが、七百萬圓も牛を食つて居る。何とか代りのもので我慢出来ぬものでせ

うか。或は牛と仇同志か、それとも夫婦関係でもあつたのか、何か知りませんが、牛の肉を澤山喰べて居ります。もう少し謹慎して、鱈で我慢するといふことにしませう。

私此の頃餘り牛の肉を食べぬやうにして居ります。之は自分の體の關係もございませう。好きではございますけれども、食分量を減ずるやうに力めて居ります。食ふ回數を段々減ずる。同じ勘定でございますから、回數を減じて居ります。牛肉のスキ焼が一番うまいと云ふ様なことをいはずに、田圃に行つて鱈を取つて來て、之に代へるとよいと思ひます。鱈は國産です。鱈の輸入といふのはありませぬ。

革類

其の次が又

革類 七百貳拾八萬九千圓

ボックスは日本製品で押へてゐますが、特種のキット染革、獺、印度紅革などは、動物が日本に居らぬから、輸入せねばなりません。

硫酸加里

其の次が

硫酸加里(粗製) 六百參拾七萬壹千圓

加里原料は主として獨逸から入れてゐます。是は肥料に供用されるものです。

懷中時計類

其の次が

懷中時計及び同部分品 六百參拾七萬壹千圓

懷中時計は精工舎などで、ドン／＼拵へてゐますが、之は特殊品なのでせう。所が日本人は數學的頭腦が極めて缺乏してゐる。非常にえらい數學の天才はあります。曾つて帝國大學の總長をして居りました、菊池大麓と云ふやうな天才

輸入品(革類、硫酸加里、懷中時計類)

も出て來ます。けれども一般に機械にはいけません。子供に聞いて御覽なさい。大抵嫌ひです。嫌ひですと云ふことは、下手と云ふことを意味します。上手なら嫌ひと云ふことは言ひませぬ。もう少し愛用より獎勵の方をやらねばいけません。

懐中時計なしでは不便です。日本人は時間の觀念が極めて少いから、時計なしでもよいでせう。開會は九時と申上げて、九時三十分になつて、まだぼつ／＼出て來る不心得の人がある。出放題に行つたらよい位な考へなのでせう。雨降りには困りますが、天氣の日はお日さんを見て居ればよい。地球の廻轉はくるひませぬ。お日さんを見て居れば確かです。時計がなくても大體見當が付きます。これなら時計の必要はござります。

國産愛用は出來ぬが、輸入を杜絶させる様しなくてはなりません。こゝに市長さんがお出でになりますから、市長さんに相談して、街の辻々の人の目のと

まるやうな所に、市で時計を拵へて貰ふ。今何時か？ ヌーツと見てやる。これは名案です。市でいかぬ所は、知事閣下、隣りにお出ですから、此の方にお願ひして、半分立て、貰ふ。それを花山の天文臺から電氣時計で、一遍に動くやうにして、銘々は國産愛用で、持つて行かぬことにする。自分ながら名案と思ひますから、之を本日の決議に致して置きます。是非一つ兩閣下に願ふことを、記録によく留めて置いて下さう。

私はこれだけ時をやかましく申しますから、分不相應な時計を持つて居りました。大正元年求めました一箇千圓以上のものを體につけて居りましたが、却々厄介なので斷然持たぬことに致しました。旅をすると、泥棒に遇はぬやうに、振動を與へさ、ぬやうに、走るのをやめて、日本服の帶の間の時計容いんに、きちつと締めて置かねばならぬ。洋服になるとじつとあさへて居らねばなりません。汽車の時間の迫つた時に、階段を上る時、振動を與へてはいかんから、そ、つと

あがらねばならぬ。誠に面倒です。もう千圓以上の時計なんか持つものではございませぬ。これは身に添はぬと思つて、爾來持たぬことに決めました。

千圓か零か、中間のは害になります。千圓のは嘘を指しませぬ。あとはよい加減な時間を指しますから持つ者の害になります。それで辻々の時計を見て歩くといふことにしたらよい。大抵皆腕時計を手に締めて居る。殆んど皆くるつて居ります。くるはぬのは千圓位の時計でなくては駄目です。それだとぼんやり歩いてゐることは出来ません。どつちにしても有害です。大きなのを街の角にたて、銘々持たぬことにすろ。これは最大の名案です。さうすると懐中時計の部分品、六百三十七萬一千圓は節約が出来る。府と市でやつて貰ふとくるひはありませぬ。測候所、花山の天文臺から、地球の運行によつて、時間を取つてやつて貰へば大丈夫であります。

大分心得のよい人がやつたのでせうが、この大佛の横にもある。丁度道の東七條通につきあたつた處に、一つ時計が置いてあります。祇園の石段下にも置いてあります。大變心得のよい人がやつたものでせう。私も来る時自動車を見て、何時だなと思つてやつて來ました。あゝ云ふ篤志の人が何處にも出ぬといけませぬ。さうして銘々六百三十萬圓は買はぬ。斯う云ふことに決議して置きませう。

銅

其の次が

銅 六百參拾參萬八千圓

これだけ日本へ輸入して居ります。日本が又銅を輸出して居りますのです。是はどう云ふ工合になつて居るか分りませぬ。六百三十三萬八千圓入れて、七百四十萬九千圓出して居ります。

ガラス板

輸入品 (銅、ガラス板)

其の次が

ガラス板 五百六拾四萬七千圓

内譯無色平面 四百參拾八萬六千圓

其 他 百貳拾六萬圓

輸入してゐるものは、窓硝子が主で、シヨウウインドウや、鏡の板の厚物です。然しそれもポツ／＼日本で研究して、製作に勵んでゐます。現に尼ヶ崎の旭ガラスでは、ベルギーのフルコール式を用ひて、盛んに厚板ガラスを拵へてゐます。其の他大連の晶光ガラス、九州の日米ガラス等も、大分出してゐますから、今後とも是等を／＼獎勵してやればよろしいでせう。

穀粉と澱粉

其の次が

穀粉、澱粉類 五百七拾六萬七千圓

是はタピオカ及びマニオク二百十萬三千圓、コンスターチ百四十萬八千圓、小麥が九十七萬五千圓其の他となつて居ります。

此の中の澱粉、是は一寸何ともよう申上げませぬ。澱粉といふものはあなた方白いものとお思ひかも知りませぬが、皆恰好が違ひます。タピオカ (Tapioca) マニオク (Manioc) の澱粉と、コンスターチの澱粉と違ひ、馬鈴薯の澱粉と、甘薯の澱粉とは違ふ形を持つて居ります。それでございますから、用途によりまして、無茶苦茶に國産愛用と云ふわけには參りません。食ふ位は我慢しても、外に工業用になりますと、澱粉の形狀によつて、用途が違ひますから、國産愛用によつてどうかうと云ふことは、懷中時計の部分品のやうに、簡單に申し上げ兼ねます。

牛 脂

其の次が

輸入品 (穀粉と澱粉、牛脂)

牛脂 五百壹萬九千圓

是は何に使つて居るかよく存じませぬが、多く石鹼の原料に使つて居ることです。大阪に商工省の建て、居ります、工業試験所がございしますが、其處の莊司所長がさう申して居りました。

その爲牛脂五百萬圓も入れて居るのですが、何かそれに代るものは無いものでせうか。ちよつと此處で何がよからうと云ふことは、申し上げ兼ねますが、何か植物の脂で、蠟のやうに代りがあるかも知れませぬ。

鹽 魚

鹽魚 四百九拾壹萬貳千圓

之は主に鮭と鱒で、北米合衆國、カナダから入れて居ります。大正八年には鮭だけで六百萬圓も輸入してゐる。是は食物よりないので、何故そんなものを北米、カナダから入れねばならぬか。尤も是は日本國民が食はずに、直

ぐ出してしまつて居るかも知れませぬ。鹽鮭及び鹽鱒といふものを、百六萬九千圓輸出して居ります。けれども四百九十一萬圓入れて、百六萬九千圓出したのでは、三百九十萬程日本國內で消費して居るのです。うっかり鹽鮭を食べてはいけませぬ。是は全體どこの鹽鮭だ？ 北海道からのださうな。それならよろしいが、知らずに食うと、國産愛用の趣旨にそむきます。

鮭鱒以外、鯨もある。棒鱈も來て居るかも知れぬ。平野屋のいもぼう、あそこで一遍いもぼうを食うて見よう。さあ此の棒鱈はどこで買うた？ 漁師はどここの海で獲つた、といふことを調べてから、いもぼうを食べる。さうなるとあの門に立つて、三年位食はずに居らねばなりません。こんなに日本は鹽魚を輸入して居つたといふことは、此の表によつて初めて見ました。鹽魚屋が不都合だと云ふ事になります。鹽魚屋は速かに其の行ひを改めた方がよい。君子の過は日月の蝕の如し。直ぐやめぬといけません。

食鹽

其の次が

食鹽 四百四拾壹萬五千圓

是は政府が悪い。私、井上さんと一口論して來ます。關東州で安くやれば、百パーセントで行くものです。

コンデンス・ミルク

コンデンス・ミルク 參百九拾九萬五千圓

私はこんなものを飲むことは大嫌ひです。日本人には迷信がある。牛乳を飲んだら榮養になると、明治七年位に教へて貰つた親父さん。爺さんの代から孫の頭に傳つて居る。

吾々の讀んで居りますお經にもさう書いてあります。牛乳は一番うまいものと書いてあります。印度人は非常に牛乳を好いた。佛の時分から牛乳よりよいものでせう。けれども幾ら十六分の一の乳でも、水より味ひがある。と書いてある。それだから貴といのだ。さういふことが涅槃經の譬に出て居ります。それはさうでございませう。

けれども日本人が乳を飲むといふことは妙ではありませんか。全體日本人は昔はお母さんの乳より飲まぬ。乳母の乳は飲むが、それ以外は飲まなかつたのです。最近になつて人間が下落して、牛の乳を飲む。錢の無い人は安物のコンデンス・ミルクを飲んで居る。近頃思想險惡になり、物が悪くなつて、人間から牛に下つた。飲んで居る人達は成る程俺は下落したと思ひなさい。私は斯う

いふものを飲むとは心得が悪いと思ひます。

鳥 卵

其の次が

鳥卵 參百九拾八萬參千圓

卵は雞の卵と書いてあります。さうでございませう。虫の卵は食はぬ。雞でございませう。家鴨の卵も去年入れて居ります。是はお菓子屋さんが入れて居ります。何故かと申しますと、日本の卵は卵黄の色が黄色くない。白けて居る。カステラを作りますのに、黄色い色で卵を手傳はせませぬと、立派な色が出ませぬ。それから又場合によりますと、ボンと二つに割つて、煮ぬきにしても、白いと不味いやうに思ひます。

日本人は目が發達して舌が退歩した。目で料理を食ふ。私共舌で飯を食うても目では食ひませぬ。さうせぬと腐つたものを掴まされたり、妙なものを喰はされる。味ひは今日迄目に責任を持たせて居りませぬ。こんなものは舌の責任で、齒の責任にして居ります。けれども多くの日本人は、料理がうまいですなといふ前に、あゝ綺麗ですなと申します。綺麗なら繪でもよい。

私はこれに就きまして、黄色い卵を産みます非常に優等な雞を、揚子江の蕪湖で買つて來ました。兵庫縣の那波に試験場がございませう。そこへ寄贈致しまして、あなたの所で飼つて呉れと頼んで置きました。聽いて見ますと、却々よく生みます。支那にもよく生むのがあるなと思ふ位、よろしうございませう。禮を言つて呉れました。

さういふ風に支那から、ちつと特有なのを輸入してやるとよろしうございませう。只今では歐米かぶれをして、歐米でないといかぬやうに思つて居ります。が、歐米は又歐米でよい所があります。支那は支那でよい所があります。絶対にいかんとは言ひませぬ。全體地中海の雞が一番よく、三百五十生みます。ど

この鶏でも地中海の藝當は出来ませぬ。支那は二百四五十やつとでございます。けれども粗食に耐えるとか、強健とかいふ特徴があります。兎に角卵はまだ參百九拾八萬圓輸入して居ります。これでは顔色ございませぬ。

あなた方卵を食ふより、鶏を飼つて置きなざる方がよいと思ひます。一羽や二羽位そんなに厄介なことはありません。お臺所の餘り物を食ひます。あんなもので儲けようと考へるからいかぬ。さういふ了見を素人が起すからいかぬのです。私のやうに農業を商賣とする者は、不了見でない、已むなく飼はねばならぬが、あなた方は、飯の餘つたのや、菜葉の餘つたのをやつて、食べるだけの卵を生ますことにして御覽なさい。此の輸入は一遍になくなつてしまふ。こんなものを残して置きますと、日本の不名譽です。

寫眞用フィルム

寫眞用フィルム 參百七拾九萬四千圓

活動寫眞用

參百〇貳萬貳千圓

寫眞用フィルムは現在多くの國産品がありますが、活動寫眞用は全部輸入してゐます。然し大阪工業試験所で、ウント研究されてゐるから、來年あたりから良い物が出来、追々輸入品はなくなりませう。當分致し方ございませぬ。

石 絨 類

其の次が

石絨及び同製品 參百七拾七萬貳千圓

仕様ございませぬ。

玉 蜀 黍

玉蜀黍 參百六拾七萬貳千圓

是は燒酎の原料と動物飼料です。已むを得ませぬ。動物飼料としては雞に食はず。これについて「ジャヴで玉蜀黍を作つて呉れ。」との相談を受け、やつて

見まして、引合うたこともございますが、仕様ございませぬ。

漆

漆 參百五拾貳萬圓

是は漆器を日本の者は使つて居ります。參百五拾貳萬圓は日本に出ませぬ。支那から輸入しなければならぬ。漆は全部支那からの輸入品でございませう。日本の漆は僅かなものです。それで作り上げた漆器を、外國へ輸出して居る。再輸出になつて居りますから、必ずしも差支へるわけではございませぬ。まああなた方の家では、漆の物は餘りお使ひなさらぬ方がよい。新しいものは漆臭うていけませぬ。古い物は差支ありませぬ。私も漆器は好きでございます。時々賣立がございますが、賣立には古物だから、漆臭いのはございませぬ。年號が明治五年、七年といふやうなのは、國産の漆ですから大丈夫です。

メートル類

それから其の次が

メートル類、器械類 參百參拾萬圓

日本で出来るものもございますが、之も仕様ございませぬ。

貝 殻

貝殻 參百貳拾八萬圓

貝殻をどんなことに使ふかと思召すか知りませんが、これは貝ボタンの原料です。あなた方御存知のない方もあるかも知れませんが、ギリ／＼と巻いた田螺のやうな高瀬貝でございます。その外に揚子江のドブ貝。それがこんな貝ボタンになる。それを又外國へ輸出しますから、日本でボタンに使つて居る分だけが、輸入品になつて參ります。七百貳拾萬圓輸出しますから差支ございせん。

高 梁

輸入品 (漆、メートル類、貝殻、高粱)

高粱 參百貳拾七萬圓

動物の飼料でございますが、動物の飼料はさきにある。何に使うて居るか存じませぬ。焼酎の原料かも知れませぬ。

鹽化加理

其の次が

粗製鹽化加里 參百〇七萬九千圓

北海道の昆布の灰から造つて、大戦中には完全に自給してゐましたが、戦後獨逸製品が廉くて、今では其處のザルツブルグから主として輸入してゐます。

電話機類

電話器及び同部分品 貳百八拾七萬壹千圓

是は遞信省が悪い、小泉大臣の心得違かと思ひます。電話局で架設するものは、國産品を使用すべきだと思ひます。又此の頃大きな會社は、自分で私設電

話をやつて居りますが、是は小泉さんを責める譯に行きませぬ。政府は政府でやらねばならぬが、銘々の會社に電話器をつける時は、國産電話器をお使ひなさる様お勧め致します。

獸骨

獸骨 貳百八拾九萬圓

是は僅かな量でございますから、骨粉を輸入せず、骨なりで輸入して、膠を取つたり、骨粉を取つたらよろしうございませう。

農具工匠具類

農具工匠具及び同部分品 貳百八拾四萬九千圓

鋤鍬等の農具、大工道具そんなものです。是はよいものなら、入れたがよろしうございませう。

酒類

輸入品（鹽化加里、電話機類、獸骨、農具工匠具類、酒類） 九七

酒類 貳百八拾壹萬參千圓

澤山輸入して酒を飲んで居ります。是は不都合です。其中葡萄酒百四拾七萬壹千圓、ウキスキー六拾四萬八千圓、其の他六拾九萬參千圓、これだけ輸入して居る。少し慎んだらどうでせう。葡萄酒と云ふものは、一概になんともいへぬ。病人には末期の水として飲ましてもよろしい。けれども餘り飲まぬがよい。末期の水といふとお笑ひになるが、キリスト教では末期の水に飲まねばなりません。佛教にはそんなことは書いてありません。

書籍と雜誌

其の次が

書籍及び雜誌 貳百七拾萬參千圓

それで知識の開発をすると云ふことになつて居るのです。實は餘り開發もしませぬけれども、表面書籍は知識開發の道具なりとなつて居ります。これはま

あ己むを得ないとして置ませう。

植物性芳香揮發油

植物性芳香揮發油 貳百六拾九萬八千圓

これだけ輸入して來て居ります。これは七十五パーセント國産品であります。まだ日本ではこれだけ入れなくてはならぬやうです。日本の中でも出来るには出来ませう。私共やる確信を持つては居りますが、あゝどうも地面で暴利を貪られたら出来ませぬ。これは長期を要するものでございますから、もつと地面が安くなつて、壹圓以下でないといけませぬ。坪參拾圓では高くついて出来ませぬ。北海道の端の方は安いけれ共、一年に三ヶ月しか使へぬ。安い代りに役に立ちませぬ。朝鮮は地味が悪いので、結局出来ませぬし、日本は地價が高いのでやれませぬし、全く産業妨害であります。

コールドール

輸入品 (書籍と雜誌、植物性芳香揮發油、コールドール)

コールタール分溜品製成品 貳百六拾七萬壹千圓

染料なり藥品なりで、芳香揮發油と同じであります。次に出て來ますバルブ關係のやうに、原料で入れるのがよろしい。ちやんと出來上つたものを買ふのが悪い。原料を買つて精製して、輸出するやうに考へぬといきませぬ。

汽船

其の次が

汽船 貳百四拾七萬八千圓

是は前年度千百五萬九千圓、今度貳百萬圓、**どん**と減つて居ります。新しい汽船を買ふとなると、一艘でも壹千萬圓ですから、是は古船を買ふのでございませう。

コルク樹皮

コルク樹皮 貳百參拾五萬圓

日本産アベ楨まきの皮がよく似てゐて、或部分は代用されてゐますが、完全なコルクを取る木の代用品は、日本にございませぬ。これは地中海沿岸のほか出來ぬもので、仕様ございませぬ。

タンニンエキス

阿仙藥其他のタンニンエキス 貳百貳拾七萬八千圓

タンニンにも色々ありますから、はつきり分りませぬ。櫛まつやにの皮を使ひましたら、タンニンが出来るのですが、近頃櫛は殆んど盡きてゐます。最近代りに五陪子の植付を、盛んにやつてゐます。

蔬菜と果實類

それから

蔬菜果實及び核子 貳百貳拾貳萬六千圓

是は全く買はなくてもよいものです。強ひて云つたら、種子と云ふものゝう

輸入品 (汽船、コルク樹皮、タンニンエキス、蔬菜と果實類) 一〇一

ちには、時々必要があるかも知れませぬ。アルモンド (almond) とか、ハゼルナツツ (hazel-nut) とか、そんなものが此の中に這入るのでせう。其の外は殆んど買はなくてもよいものと思つて居ります。蔬菜果實などは、改良に研究に意を用ふれば、日本で充分立派なものが出來ると思ひます。全體日本の農事試験場にはよろしいものがございます。斯う云ふ機關を利用して、進歩改良に力めねばなりません。四條萬養軒の主人の伊谷君の如きは、「自分の所の蔬菜サラダは、蟲のない蔬菜を使つてゐる。蟲のつかぬ蔬菜は、農事試験場以外安心の出來る所はない。」と言ふ。成る程そうでありませう。私の所は随分吟味して作つて居ります。伊谷君から少し分けて呉れと云ふことでした。「私の所もある時とない時がある。ある時はお上げしませう。」と云ふので、今分けてあげて居ります。さう云ふ工合に御主人が、蟲つかずサラダを食べさせて呉れる所はよろしい。多くの西洋料理屋カフェーは、殆んど蟲つきサラダを食はしてゐる。あなた方も

亦蟲つきサラダを、「安かつたらよい」で食べておいでる。蟲の卵が、蛔蟲になるか、十二指腸蟲になるか、腹中一つばい寄生蟲になつて居るでせう。私は恐ろしくてたまりませんから、自分の家のサラダでなければ、決して食はぬ。食ひさへしなければ間違ひございません。

自分の家のは嚴重にやつて、絶対に糞便肥料は使ひませぬ。外のもはこれを使ひますが、サラダ用には水以外使ひませぬ。農事試験場でもさうです。たださう云ふ篤志家が二三、私と同じやうにこの方法でやつて居ります。勿論素人でございますが、我身の可愛い方は、これは當然さうあるべき筈です。若しやつて居らなかつたら、知慧が足らぬか、技術が足らぬか、地面がないか、若しくは錢がないか、此の四つのものを缺いで居るためで、これらが揃つて居たら、私と同じことをやるのがよいと思ひます。

あなた方は晝飯に洋食を食べる方がありませう。蟲のつかぬ洋食をお食ひに

なりたかつたら萬養軒へお出でなさい。萬養軒の提灯を持つのではございません。伊谷君の所のは少々高うございます。何故高い。例へば蟲つかずサラダを食はす。凡てこう云ふ工合に材料が上等ですから高いので、已むを得ませぬ。さう云ふ工合に氣を附けたら、外國から輸入しなくてもよいと思ひます。日本のやうな園藝國で、蔬菜を輸入するなどは、抑も本末を顛倒した愚かなことでございます。

次は果實ですが、一般に果實はどうも出來が悪い。不味うございます。美味いと思つて食ふのは洵に稀でございます。多くは已むを得ずして食はれて居るに違ひない。「食はなくても悪いし食うても不味いし、まあ食はうか。」どつちにしてもよくはないが、まあ仕方なしに食つて居ると云つた鹽梅でせう。私は夏蜜柑が好きでございます。夏蜜柑をくりぬいて、砂糖を入れて、グレープ、フルートのやうな食べ方をします。「日本中で一番美味しい夏蜜柑を食うてや

らう。」と言つて居りました處、萩の人が私に送つて呉れました。食べて見ましたら、萩のは比較的美味しいです。袋が一寸かたい。かたいが萩のはうまい。所がそれを食ひ盡してしまつた。まだ食ひたいから、祇園にあります、八百文に注文しました。「夏蜜柑の上等を下さい。」と、取り寄せて食つてみました。成る程値段だけは頗る上等ですが、品物は上等とはいへませぬ。酸いの酸くないの、拘櫞酸を作るのに、頗る適當して居ります。拘櫞酸の原料としてはよいでせうが、食用に堪へませぬ。「どこで買うた。」原産地證明を求めた。和歌山縣だと申します。まがいもない國産です。國産でなかつたら、或は美味かつたかも知りませぬ。和歌山縣は蜜柑の本場だからうまい筈だが、こんなことでは逆もいかぬ。あなた方も和歌山縣のは、お食ひにならぬ方がよろしいでせう。こんなものは拘櫞酸の要る時に、お買ひになれば、充分其の用を爲します。山口縣の萩のものが遙かによろしい。序でがありました、取寄せましたら差上げます

から、お試めしになつて御覽下さる。

この間さう云ふ話をして居りましたら、山口縣萩の田村一郎さんが、「直ぐあげよう」と云ふので、戴きました。此の中にも山口縣萩の人がありましたら、精々下さるやうにお願ひ致します。萩のでないとどうも皆不味いやうです。

それから林出賢次郎と云ふ親友がございます。この人は紀州有田郡の人ですが、「あなたの所は、蜜柑は美味いが、夏蜜柑の不味いのはどうしたのです。」と申しますと、「其の通り大きに尤もだ。蜜柑は有田川の兩岸で、昔から傳來の地味のよい所に植えて居る。夏蜜柑は平地で、地味の悪い所に植えて居る。」御本人がそう申して居ります。「よくあんなものを、人が食つて居る。」却々わけの分つた事を申して居ります。冬蜜柑を召食するなら、和歌山がよろしうございますが、紀州の夏蜜柑はどうもいけませぬ。紀州の産物にもよいものと、わるいものがあります。けれどもそれだけ上等の紀州の冬蜜柑も、山口縣の夏蜜柑も、サンキスト

のオレンジに比べると、ずつと味が下がる。私の知つて居ります、それは私の所へ來て居ります學生の家でございしますが、其の家から、ネーブル、オレンジを送つて呉れます。サンキストを百點としますと、これは七十五點と云ふところでございます。是は可なりよろしうございます。熊本縣の確か玉名郡で、坂本と云ふ家でございます。これなんか日本ではもう非常によいとせねばならぬ。それでやつと七十點か七十五點です。サンキストのネーブル、オレンジと比べて、遜色のないと云ふのは少うございます。サンキストにも時々不味いのがございます。泥棒に遇うたやうに思ふ時がございますから、よく吟味しなくてはなりません。日本人は一般に果物に對する考がない。子供の時は只盗んで居る。西洋かぶれの連中が、果物を皿につけて出す。出す者も分らねば、食ふ者も分らぬ。已むを得ないから食べて居ると云つた有様です。私共あれをよばれる時に、不味いのを美味いやうな顔をして食はねばならぬ。洵につらい思ひです。國産に十分の改良を

加へて貰ひ「斯う云ふものは輸入すべからず。」と園藝主に注告して置きます。

寫眞用乾板

寫眞用乾板(現像セザル) 貳百八萬貳千圓

大阪工業試験所長、莊司さんの努力により、成功して、普通の外國品程のものは立派に出來ますが、まだ之だけ輸入してゐるのですから、ウント氣張ねばなりません。

豚毛

豚毛 壹百九拾七萬圓

まあ這入つてもよいと思ひます。是は刷毛の原料でございます。ブラッシ類のものは、日本以外の國では餘り出來ぬものです。

鐵砲類

それから

鐵砲及び同部分品 壹百九拾六萬七千圓

こんなものは輸入してはいけません。輸入する代りに、こちらから作つて賣り出す様に力めねばなりません。

絶縁電線

絶縁電線 壹百九拾四萬貳千圓

是は電氣用のもので、國産で十分代用出來ます。

水銀

水銀 壹百九拾四萬貳千圓

是は入れぬといけません。

理化學器類

理化學器及び部分品 壹百九拾參萬四千圓

是はものによつては輸入しなければなりません。大體に京都の島津製作所

輸入品(寫眞用乾板、豚毛、鐵砲類、絶縁電線、水銀、理化學器類) 一〇九

で、立派なものを作つて居ります。

コーヒー

コーヒー 壹百九拾貳萬六千圓

精製されたコーヒーの輸入は止めて、原料のコーヒー豆を少し澤山入れるやうにしたらどうでせう。これはどうも日本に出来ぬものです、人には趣味嗜好と云ふものもありますから、一概には言へませぬが、成るべく飲むことを禁止したいものです。

眞鍮と青銅

其の次が

眞鍮及び青銅 壹百八拾九萬九千圓

是は日本で充分出来ますが、此處の金額は特種の製品のことです。

生絲

生絲 壹百八拾四萬圓

日本は生絲の國で、生絲を入れるのは妙なものですが、其處は商賣でございます。何か其の時に、支那絲を安く入れたのでせう。今日論ずる必要はございませぬ。

釘類

釘類 壹百八拾壹萬參千圓

九州の安田の製釘所で、ドンドン造つてゐますが、特種品と不足品を入れてゐるのでせう。

綿織物

綿織物 壹百七拾九萬八千圓

これだけ綿織の必要があつたのでせう。

繭

輸入品 (コーヒー、眞鍮と青銅、生絲、釘類、綿織物、繭)

繭 壹百七拾五萬六千圓

未成のものでございますから、繭の儘五億でも六億でも、這入つて居つてよ
うでございます。

カゼイン

カゼイン 壹百六拾貳萬壹千圓

是は牛乳から作りましたもので、色んなものに合せますものでございます。
莊司所長から色々な話を聽いて居ります。化學用品として、當分仕方がござ
いますまい。濠洲から取つて居ります。

爆發藥

其の次が

爆發藥 壹百六拾壹萬六千圓

現在陸軍で造つて、拂ひ下げてゐますが、是は矢張り何か特別品に類するも

のでせう。之に代ります民間で使ひます爆發藥は、液體空氣を使ひます。貯藏
は要りませぬ。其の場／＼で作ります。おまけに空氣は只です。國産であ
ります。

タンニン材料

沒食子其他のタンニン材料 壹百六拾萬參千圓

沒食子と云ひますのは、ガリック (Gallie) と謂ひまして、蟲の巢のやうな
ものです。四川から來て居ります。是はタンニン用でございます。仕方がござ
いますまい。其他のタンニン酸のものは、南洋からも來ます。

籐

籐 壹百五拾壹萬五千圓

是れはシンガポールから來ます。此の儘でよろしい。仕方ございませぬ。

インヂャラツバー類

輸入品(カゼイン、爆發藥、タンニン材料、籐、インヂャラツバー類)一一三

インヂヤラツバー及びガタバーチャ製品 壹百四拾八萬圓

海底電線用のもので、輸入は仕方御座います。

包 莖

それから

包莖 壹百四拾六萬圓

アンペラのことです。是はいけませぬ。アンペラは何とかなり相なものです
が、何に使つて居ますか、包物ですから何か代用品がありそうに思ひます。

計算器類

計算器及び同部分品 壹百四拾六萬貳千圓

ガチ／＼とやると、金がチン／＼と出て、誤魔化せぬやうになつて居る、あ
の器械です。和製も大分あります。

ニツケル

ニツケル 壹百四拾參萬四千圓

是は原料で仕方ございませぬ。

鐵道車輛類

鐵道車輛及び同部分品 壹百四拾貳萬圓

是は江木さんと差向ひで、御意見を伺つてみませう。

フェルト帽子

フェルト帽子 壹百四拾萬七千圓

國産の麥藁でまけて置いたらよいでせう。冬になつたら羽二重の鉢巻でもす
るとませう。

鐵 鏈

鐵鏈 壹百參拾七萬四千圓

船の碇なんか小さなものであります。

錯酸石灰

醋酸石灰 壹百參拾六萬參千圓

醋酸石灰と云ふものは、木を乾溜して、炭を造る時出来るものです。醋酸石灰の高かつた時は作つて居た。今は安くなつたから輸入して居るのでせう。何とか對策を考ねばならんと思ひます。

寫眞用紙

寫眞用紙（印畫紙、プロマイド）壹百參拾五萬參千圓

普通のカスライト、プロマイドは、國産品がありますが、其の他の美術印畫紙は、どうもまだ出来ない様です。

粟類

粟、黍及び稗 壹百貳拾參萬圓

粟、黍、稗、この中粟、黍は兎も角として、稗などは鶏の飼料とより考へら

れませぬ。

齒磨粉、香水類

齒磨粉、香水、其他調製薰香類 壹百拾七萬四千圓

中山の提灯持ちをするのではありませんが、中山からお買ひになれば、これは國産品ですから間違ひございません。近頃は日本で却々立派なものが出来て居ります。追々輸入の必要もなくなりませうが、これは國産で充分間に合ふものです。一つしつかり國産品の愛用をお勧めして置きます。

香水はどちらかと云ふと女の方に御使用の方が多い。處がどうも香をかいで香水をお買ひになる方は少いやうです。私は香水は香ひのものだと思つて居つた。あれは瓶ださうです。そうなると瓶の體裁を見て香水をお買ひになるのも至極當然ですが、全體香水はその薰香にあり、瓶は付けたりのものです。私も始終自分のハンケチにこれを塗つて居りますが、瓶はどうでもよろしい。中の品

物が大切ですから、瓶なんか見て居りませぬ。香水屋の吾々はそう考へて居ります。中には瓶だけ洵に結構で、中味はよい加減のものがある。つまりガラスに高い金を取られてゐる。甚だどうも馬鹿げた話です。香水は貴重なもの。これにそれ相應の代價を支拂ふと云ふのなら話が分つてゐますが、ガラス代に大部分を取られて居るやうでは吾々感心致しません。拾五圓出して居る香水の原料は、壹圓五拾錢位のものである。そうすると後の拾參圓五拾錢は、税金運賃、ガラス代と云ふことになる。出来は舶來だし、値段は高いし、外觀は美しいし、さつと上等だらうと、つい騙される。原料はどんなに高くつても、壹圓五拾錢を出やませぬ。香水は瓶を買ふのではないと、先づ香を吟味してお買ひになれば、國産で充分間に會ふことゝ存じます。

滑石類

其の次が

滑石及びビソープストーン 壹百拾七萬參千圓

是は原料で仕様ございませぬ。

還元劑

ロンガリット其他の還元劑 壹百拾六萬七千圓

仕方ございませぬ。

カーボンフラック

カーボンフラック 壹百拾壹萬參千圓

墨の原料です。是は字を書くのに使ふのですから、まあ仕方ございませぬ。

寫眞機類

寫眞器及び同部分品 壹百八萬八千圓

日本でもポチ／＼造りかけてゐますが、まだ前途遼遠です。國産奨勵品の一つですから、結局國民が常に愛用を續けて居れば、輸入品もなくなるでせう。

輸入品 (滑石類、還元劑、カーボンフラック、寫眞機類)

ドロマイトとマグネサイト

ドロマイト及びマグネサイト 壹百七萬壹千圓

是は百七萬と書いてございますけれども、全部七十五パーセント百パーセントの間でございます。ドロマイト、マグネサイトは、關東州即ち滿鐵の沿線から出ます。是はアルミニウムに代つたら、もつと輸入されて來るとよいかと思つて居ります。

大 麥

大麥 壹百六萬壹千圓

こんなものは輸入しなくてよろしいと思ひます。

ピッチとアスファルト

ピッチ及びアスファルト 壹百貳萬參千圓

地面に布かんでもよいやうにならんと仕方ございませぬ。

結 論

これから以下——百萬以下は、繁に堪えませんし、御約束の二時間も過ぎましたからやめます。

これだけ申しましたが、これはほんの大略で、箇々の問題に就て、或は充分お分りにならなかつたかと思ひますが、要するにこゝに現れたもので、國産品で代用出来るものは、なるべく慎んで買はぬやうにする。さうでなくて已むを得ぬものは輸入する。その代りに、自分銘々のして居るものを出すやうに努力して、うまくバランスを取つて行く。綿は買ねばならぬが、反對に絲を出して取りかへす。斯う云つた風にうまくやらねばなりません。榮螺の壺に這入つたやうに、外國品を買はずに、頭巾を被つて、白羽二重の着物を着て、草鞋をはくか、穴の中に這入るか、成る程それも一策でせうが、そんなことは出来はしませぬし、そんな消極的なことでは駄目です。貿易は大いに發展さして、買ふも

のは買ふ、出すものは出す。併し日本にあるものはなるべく國産で辛抱する。是が總理の謂はれる、國産愛用の意味であらうと解釋するのであります。國産愛用及び獎勵が徹底しますと、日本の國の富と云ふものは、之によつて増進して來ざるを得ない。斯ふ云ふことになります。今日はそれを申上げた次第でございます。

(昭和五年六月八日講演)

國産の愛用終

昭和六年三月五日印刷

昭和六年三月十日發行

國産の愛用

定價四拾錢

著者 大谷光瑞

發行人 柱本瑞俊

東京市京橋區銀座西八丁目五番地

印刷者 渡邊安雄

東京市京橋區銀座西八丁目五番地

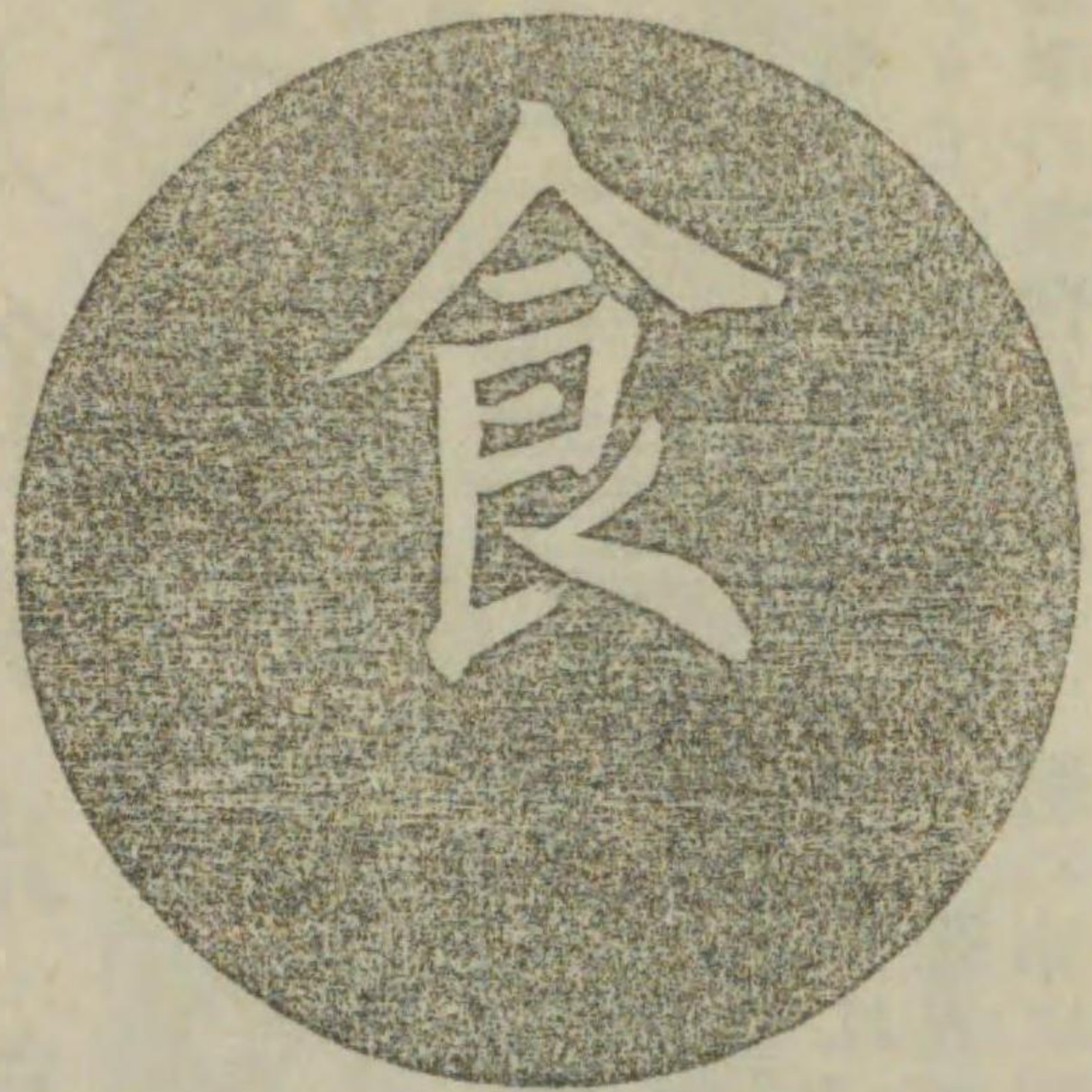
印刷所 民友社印刷所

東京市京橋區築地三丁目十六番地

發行所 大乘社東京支部

電話京橋四七三〇番
振替口座東京二二番

◎最新刊◎
○大谷光瑞師著○



全卷要目

○四六判 四二〇頁
定價金貳圓八拾錢
送料 金拾貳錢
卷頭寫真版三葉
天文日記、茶道家元
藪内家に相傳古文書
誤られたる現時の料理
料理の眞價
人類と食 二、庖厨調理の技

各種料理の概観
一、日本料理
魚肉料理 | 味噌汁 | 炙魚 | 煮魚 | 液汁 | アへ
物 | 酢の物 | 香の物 | 米飯 | 麵 | 蕎麥 | 餅 |
パン | 蔬菜料理 | 乾燥食品
鳥獸魚肉類 | 蔬菜類 | 油 | 異味 | 概評
佛國料理 | 英國料理 | 歐洲の蔬菜料理 | 各國
の料理 | 歐洲料理概評

二、支那料理
歐洲料理
佛國料理 | 英國料理 | 歐洲の蔬菜料理 | 各國
の料理 | 歐洲料理概評

三、印度料理
歐洲料理

四、シヤバ料理
食品論
獸肉類 | 禽類 | 魚類 | 蔬菜類 | 菌類 | 海草類 | 加工食品類 |
生果類 | 菓子類 | 飲料

附結
論

本書は先づ誤れる現時世上の料理を駁論し、徒らに形の美を逞ひ、眼を樂ませ、飢を驚するも、畢竟金錢の濫費に過ぎざるを明にし、如何にせば至廉の材料を以て、大牢八珍の美味を得べきかを説き、次に日本支那歐洲印度南洋諸國の料理に就て、著者自ら嘗破したるものを擧げて、食味の眞骨髄を究め、更らに材料たる鳥獸肉及び蔬菜等凡ゆる食品に就ては、著者豊富の體験と、独自の見解とを以て、批判し解剖し、最も經濟的に最も美味しく食すべき方法を提示して、料理の極意を要約せり。之れ世上在來の料理書と、全く其の選を異にするもの、各家庭必備の指針として御愛讀を乞ふ。

大谷光瑞師著

大乘社支部發行

版十九第

帝國之前途

菊判 百六十頁
定價 金六拾錢
送料 金六錢

卷頭序文著者眞筆版

時難は刻々全國民の上に急迫し來れり。われ等は如何にしてこの難局を打開すべき乎。政治家よ、學者よ、實業家よ、すべての同胞よ、今は徒らに空論を闘すの時にあらず。一代の先覺者たり、指導者たり、實行者たる巨人大谷光瑞先生は、竟に此の熱血を以て綴れる名著を提げて立てり。巨人の指揮杖は今明確に前途の一大光明を指示す。國家の興隆、個々人の成功は諸君の目前に在るを知らずや。

版拾參第

國民之自覺

菊判 百六十頁
定價 金六拾錢
送料 金六錢

著者は前著『帝國之前途』を以て經とし、新著『國民之自覺』を以て緯とし、八千萬の同胞悉く兩者を綜合併讀し、其の實踐躬行により、我國力の發展、國富の増進を期し、又一家の繁榮、生活の安定を得て、世界無比の皇恩に報ぜん事を希ふ赤心より本書を公にせり。冀くは諸賢の座右に一部を備へられんことを。

版八

佛說阿彌陀經講話

定價 四圓
送料 六錢

近代のわが佛教聖典中最も普及されたのは此の阿彌陀經である。西方淨土の本願は正に此の經典より流出してゐる。本書は近代の俊學、大谷光瑞猊下の註釋本にして、その博學なる、その鄭重なる實に手をとつて親しく教へを受くるの感がある、苟くも阿彌陀經を稱ふる者の必ず手にすべき書である。

版四十

般若波羅密多心經講話

定價 四圓
送料 七拾五錢

世に般若波羅密多心經を講ぜしもの決して少なしとせず。而して本書が他に卓絶せる所以は、直ちに印度の原書に依憑し、社長が該博の蘊蓄を傾倒し、その梗要を平明に譯述せられたるにあり。蓋し本書に於ては一々の語源に就て文法上より解義せられたるものなりとす。

賜台覽

第一義諦

定價 四圓
送料 壹圓貳拾錢

絕對他力の平易簡明なる科學的解説は先人未踏の境地として眞に一世の大獅子吼、千歲不朽の名著なり。天下求法の士請ふ之に依りて悟道の彼岸に到達せんことを。

版十

佛教の原理

四六判クローズ裝美本
特製 定價 貳圓
並製 定價 壹圓五拾錢
送料 特八錢 並六錢

佛教は今の人に解らないのではない。科學的の頭をもつた今の人々の方がよく解る。それに佛教は何か現代人とは無關係のやうに考へて居るから此書が出て居るのである。この本を読んで見れば、過去も現在も未來も誰一人として、また何一つとして没交渉であり得るもので無いといふことが判る。

版五 觀世音菩薩

四六版並製寫真版挿入
定價 壹圓 送料 六錢

妙法蓮華經普門品(梵、英、漢、和譯)華嚴經普賢行願品、觀無量壽經觀音觀挿入

觀世音菩薩の御名は我々佛教徒にとつて欣仰すること久しきものである。然るに凡俗の徒はその來歴、由來を詳知するもの又稀である。甚しきは菩薩をして女人であるとなし、その説も亦區々、今此處に大谷光瑞師は大方の熱誠により、梵、英、漢、和の諸經を參照引例して本稿の述成る。師の科學的なる佛典解説は既に定評ある所、宜しく諸賢の御繙讀を俟つ。

版十 見眞大師

菊判上製四百頁
定價 參圓 送料 拾錢

本書は本社々長の一大論文にして、堂々十三萬言、直ちに大聖親鸞上人の本旨を宣説して遺憾なし。今や百世の群生昏自ら閉して長く不測の深淵に墮せんとす。是れ寔に憐むべし。讀者能く本書に依りて大聖の眞面目を知り、併せて本願圓頓一乘の妙法に達するを得ん乎。

極樂莊嚴

四六判箱入天金 定價 貳圓
總クローズ製 送料 八錢

親鸞上人の胸中燦たる光明に満ちた極樂の莊嚴は、もはや宗教、哲學、道德の世界に逐はれ、科學の世界はその光を奪ひ、時代はこれを葬らんとしてゐる、こゝに於て社長は科學は如來の世界に於て始めて儼存するものなる事を宣し、現代人に甘露の法雨を澆いてゐる。眞摯なる讀者を俟つ。

佛教の要諦

菊定料價半 截七拾紙 錢錢裝

內容 一、眞如 佛教は宗教に非らず、物質と精神一切皆空
二、實相 萬物悉く變化、智慧、因果、眞正の教理
三、來世 三身、衆生、善惡、方便、大慈大悲
四、經典 同質異性、正確簡單迅速の方法、其他

他力眞宗

菊定料價半 截七拾紙 錢錢裝

他力眞宗の本義を明にして、其の實相と、假相とを辨じ、成佛の方法を説いたもので、眞に社長の警咳に接するの思ひがある。是こそは無明の闇に迷へる人士をして、光明の世界に入らしむる良書。

無題錄

第一編 第二編 菊半截 定價 送料
第三編 第四編 第一、二編 各八拾錢 送料
第三、四編 各八拾五錢 四錢

巨人世に興して、降魔の利劍を執り、亂麻の如き當面の非を悉く斷ち盡さんと居る。依つて、その觸るゝところ、克く截らざること無き痛刀の快味に對して、鬼神は哭し、聖者は恭敬禮讃して居る。また、具眼の僧俗は、この斷片の小題を讀んで救はざる救ひの尊さを看破するも、群盲は、この獅子吼に値ふ、遂に聲の如く啞の如くである。世の識者たるもの、速に、この縱橫無盡に進行出づる智慧の泉を掬して、大いに樂しみ、大いに利せられん事を切望して止まぬ次第である。

孫子新註

三六判上製函入
定價 壹圓 送料 四錢

孫子を支那の古き兵書のみと閑却するものあらば大なる誤である。其の本領は外交、經世の眞髓を説く。是れを有して國家榮え、是れを讀みて國民昂る。寔に政治、外交、商事、教育、日常處世上の活教訓書として價値高く、是れが活用によりて得るところ、厚く、深し。社長は深き智識を以て能く此書の眞精神を味讀し簡潔明快に心解せらる。蓋し人生處世の好指針、國家立策の寶典として、大方の必讀を俟つ。

大谷光瑞師主宰

月刊
雜誌

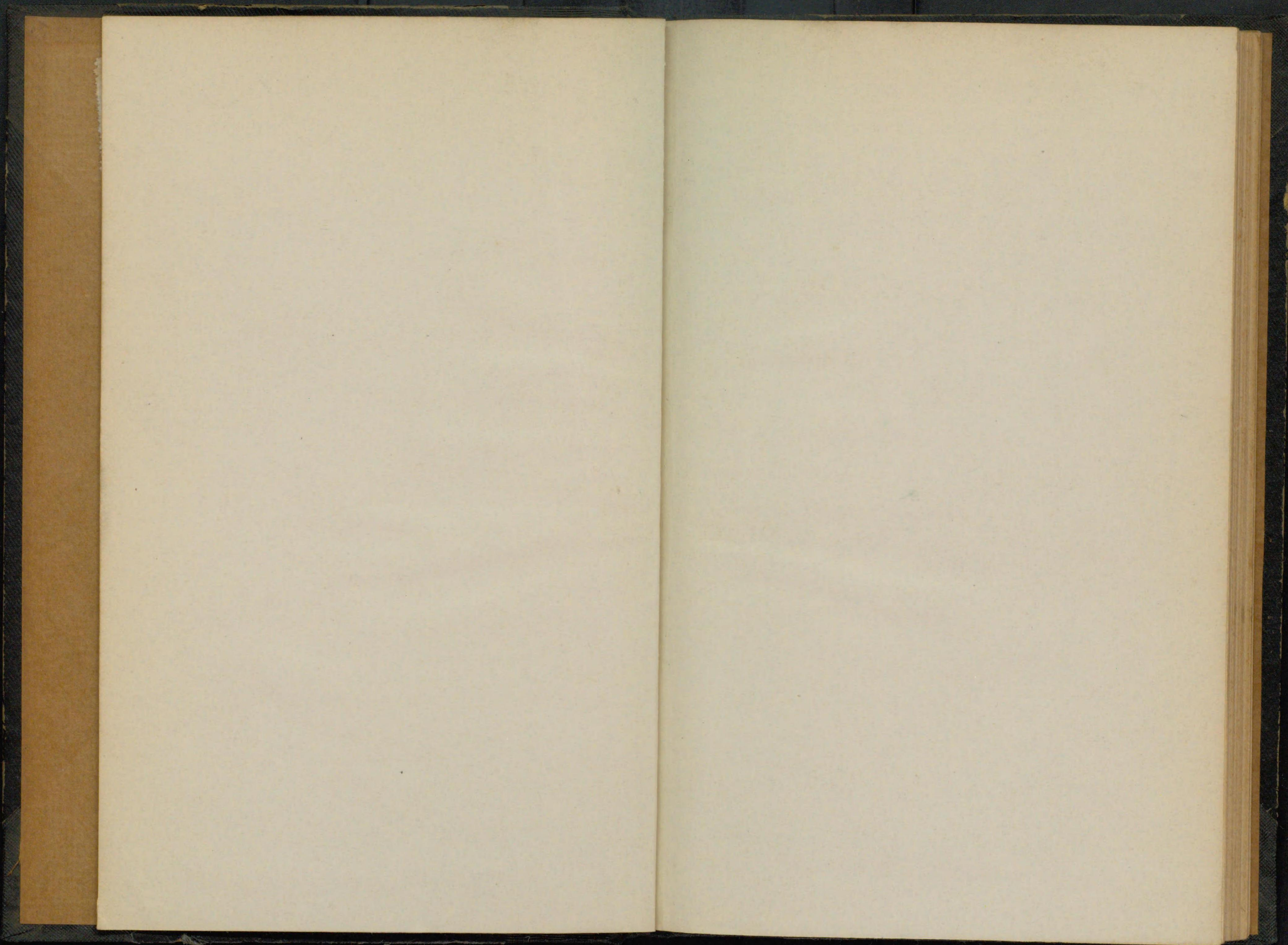
大乘

購讀料

一部四拾五錢 半年二圓六拾錢
一年五圓 (各送料共)

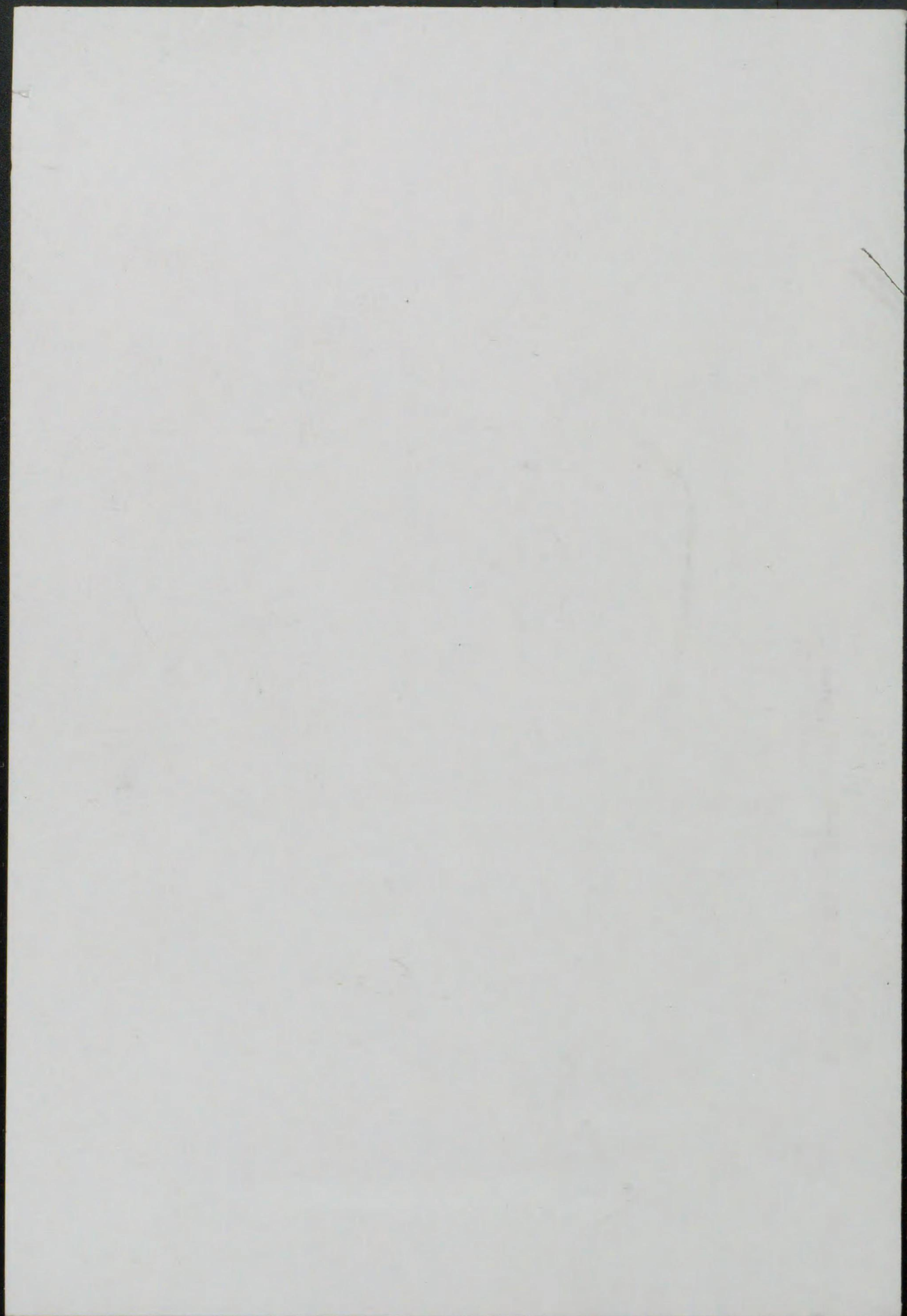
天馬空を行くやうに自在に大道を濶歩する者の聲を絶えず聞き続けやうとするには雜誌「大乘」の讀者となる事である。その社長たる大谷光瑞師を通して始めて吾人の耳に入る天來の聲はそれを纏めた著書でも讀める。しかし「大乘」によるやうに、月に又新にその警咳に觸れる譯には行かない。

竊に佛の深意を身に體して、世間の凡ゆるることの上に咀嚼して居る師である。佛典の解説はもとより時論隨筆に至るまで、眞を穿ち切實を極めて居る。眼の開いた現代人としては、折角のこの好伴侶の大聲を聽く特權を棄て、は同じ時代に生きた甲斐があるまい。



104

606
216

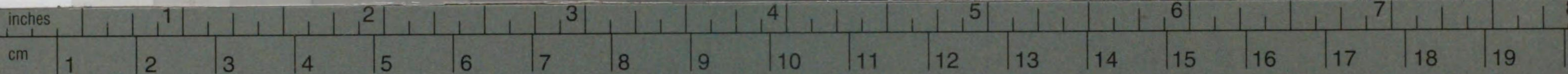


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

